

小学校外国語科における

児童の話すこと[やり取り]の質を高める授業実践

—疑問文を活用する力を伸ばす継続的な活動（帯活動）を通して—

一般留学生 金子 裕亮

研究の概要

本研究は、小学校外国語科の話すこと[やり取り]の言語活動において、児童の英語の知識及び技能の習得を促すことにより、英語コミュニケーションにおける児童のやり取りの質を高めることをねらいとする。やり取りの質を高めるには、児童が思考力・判断力・表現力を発揮できるような目的や場面、状況の設定が必要だが、児童が目的や場面、状況に応じて自分の考えを表現するためには、そのやり取りを支える英語の知識及び技能の習得が、当然のことながら必要となる。

本研究では、このやり取りの質を高める知識及び技能として、特に疑問文の活用に焦点を当てる。これは、英語コミュニケーションにおいて、単調な一問一答形式のようなやり取りにならず、深いやり取りにするためには、児童が相手の発言を受けて、思考力・判断力を働かせて、場に応じた質問をすることが欠かせないと考えためである。そして、この疑問文の習得には、実際のコミュニケーション活動を通じて、繰り返し指導することが必要であり、そうした観点から、目的や場面、状況を設定し、疑問文を使って会話する活動に継続的に取り組むことが有効ではないかと考える。本研究では、事前・事後アンケートを実施し、児童のやり取りの意識に対する変容を調べるとともに、児童がやり取りしている場面を撮影し、やり取りの回数や発話内容を分析することで、継続的な活動（帯活動）を通じて、疑問文を活用する力（場に応じて質問する力）を伸ばすことがやり取りの質を高めることに有効であることを検証する。

キーワード

話すこと[やり取り] 知識及び技能 思考力・判断力・表現力 疑問文 帯活動

I 主題設定の理由

（１）小学校学習指導要領外国語活動と外国語科の〔知識及び技能〕の目標の違いから

外国語活動と外国語科の学習指導要領を比較すると、〔知識及び技能〕については、その内容が大きく異なっていることが分かる。外国語活動の〔知識及び技能〕は、（１）英語の特徴に関する事項として「異文化理解」「言葉の面白さ・豊かさ」「コミュニケーションの楽しさ・大切さ」というような、児童に外国語学習の動機付けを促す項目で構成されている。一方、外国語科の〔知識及び技能〕は、「音声」「文字及び符号」「語、連語及び慣用表現」「文及び文構造」といった英語の特徴やきまりに関する具体的内容が中心となっている。つまり、〔知識及び技能〕という点においては、外国語活動では、児童が母語と異なる英語という言語に興味関心を持ち、英語によるコミュニケーションに慣れ親しむように指導することが目指されている。一方で、外国語科では、児童が学習指導要領に示された英語の言語材料を学び、英語による実際のコミュニケーションにおいて、それらを活用できるように指導することまで求められていることが分かる。

（２）自身の学校現場で抱える課題から

私は、これまで外国語活動や外国語科の話すこと[やり取り]の言語活動を授業で行う際に、児童同士のやり取りを成立させるために、リアクション表現を行うよう児童に指導してきた。授業の初めのあいさつをする時やスモールトークの中で、児童に身に付けてほしいリアクション表現を手本としてやって見せたり、やり取りの中間指導の際には、リアクション表現が上手な児童の様子を学級内で共有したりするなど、特に力を入れてこれまで指導を行ってきた。こうした指導により、児童は、やり取りの中で “I see.” “Me too!” など友達の言ったことに対してリアクション表現を用いて返すことが増え、やり取りを成立させることができた。

しかし、リアクション表現は、それ自体が英文として短く、児童が容易に活用できるため、ともすると相手の発話を正確に理解していない場合でも使えてしまったり、またリアクション表現は行うものの、その後に適切な発話を続けることができず、そこでやり取りが終了してしまったりという姿も見られた。こうした例を振り返って考えてみると、リアクション表現を行うことを指導するだけでは、児童の思考力・判断力・表現力は働かず、結果として英語コミュニケーション活動においてやり取りが深まらないことが課題として浮かび上がった。児童が反射的なリアクション表現やテンプレート化した質問を繰り返すことでやり取りが単調になってしまうことが一因であるが、やり取りの中で、外国語活動で慣れ親しんだはずの疑問文が活用できないことが大きな要因であると考えられる。

（３）課題解決のために

（１）（２）より、やり取りにおいて、話題や相手の発話に応じて適切に疑問文の活用ができる（場に応じた質問ができる）ように指導することで、児童が思考力・判断力・表現力を働かせることにつながり、英語コミュニケーションにおけるやり取りの質を高めることができると考え、「小学校外国語科における児童の話すこと[やり取り]の質を高める授業実践―疑問文を活用する力を伸ばす継続的な活動（帯活動）を通して―」という主題及び副題を設定した。

また、継続的な活動（帯活動）は単元の言語材料や表現に縛られず様々な話題や活動を仕組むことができ、さらに単元終了後も既習事項を繰り返し取り上げることができる。この特徴を生かし、児童が多くの目的や場面、状況の中で疑問文を活用することで、その技能をより高めることができると考える。このように、継続的な活動（帯活動）の特徴を生かして、疑問文を活用する力（場に応じて質問する力）を伸ばす指導を通じて、児童の思考力・判断力・表現力を育成し、話すこと[やり取り]の質を高めていきたいと考える。

Ⅱ 本研究の目標

本研究では、外国語活動で慣れ親しんだ疑問文を、様々な目的や場面、状況を設定した継続的な活動（帯活動）を通して指導することで、児童が疑問文を活用できる（場に応じた質問ができる）ようになることを目指す。また、児童自身が、様々な場面で自主的に既習の疑問文を活用して、話題や相手の発話に関連した質問をすることで、英語コミュニケーションによるやり取りが深まると考えられる。このように、継続的な活動（帯活動）を通じて、疑問文を活用する力（場に応じて質問する力）を付ける指導が、児童の話すこと[やり取り]の質を高めることを検証する。

Ⅲ 研究の基本的な考え方

1. 本研究で目指す「質の高いやり取り」の定義について

本研究における「質の高いやり取り」とは、英語によるコミュニケーションにおいて、「その場で」児童が、思考力・判断力・表現力を働かせて「話題や相手の発話に関連した質問」をして、「互いの考えや気持ちを共有する活動」と定義づける。

(例) 話題：クリスマスに欲しい物

A

St1: Hello!
St2: What do you want for Christmas?
St1: I want a new baseball glove.
St2: I see.
St1/St2: … (沈黙)

B

St1: Hello!
St2: What do you want for Christmas?
St1: I want a new baseball glove.
St2: I see. … Do you like Otani Shohei?
St1: Yes, I do. How about you?

⋮

(例) は、「クリスマスに欲しい物」という話題について、想定される児童同士のやり取りを示したものである。ここでは、(例) で示した二つのやり取り A と B を比較して、本研究で目指すやり取りについて考えてみる。A のやり取りでは、St 2 は欲しい物について「新しいグローブが欲しい」という相手の情報を一つ聞き出してはいるが、リアクション表現後には発話がなく、互いに会話が続かなくなっている。一方、B では、「新しい野球のグローブが欲しい」という相手の発言を受け、「その場で」思考し、「大谷翔平が好きか」とさらに尋ねることで、St 2 は「新しいグローブが欲しい」という情報と「大谷翔平が好き」という二つの情報を相手から引き出している。また、St 1 も返答するだけでなく、「その場で」相手に尋ね返すことで会話がさらに続いている。このように、やり取りの中で疑問文を用いて話題や相手の発話に関連した質問を「その場で」思考し、活用することで、聞き出せる相手の情報が増えることはもちろん、会話を継続することも可能になる。

B の例からわかるように、やり取りの質を高めたのは、即興的な疑問文の使用である。相手の発話に対して、即興的に発した疑問文の内容から、児童が「その場で」〔思考力・判断力・表現力等〕を働かせていることがうかがえる。このように学んだ疑問文を適切に用いて「その場で」相手に質問をすることの重要性は、外国語科学習指導要領解説にも以下のように記されている。

(前略)

簡単な語句や基本的な表現を用いてのやり取りではあるが、その場で質問したり、答えたりすることができるようになることを求めている。「その場で」というのは、相手とのやり取りの際、それまでの学習や経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりすることができるようになることを指している。また、ここでのやり取りが、中学校の外国語科での簡単な語句や文を用いて即興で話すことへとつながっていく。

外国語科学習指導要領解説(p. 80)より

以上より、本研究では、「その場で」「話題や相手の発話に応じて、適切な疑問文を用いて質問」をして、「児童が互いの考えや気持ちを共有している」姿を〔思考力・判断力・表現力〕が働いている姿として捉え、そのようなやり取りを「質の高いやり取り」とする。

2. 本研究が想定する実際のコミュニケーションとしてのやり取りについて

外国語科の授業においては、単元の最後に評価のためにタスク（課題）を設定したやり取りを行うことがある。例えば、レストランで食事を注文するようなタスク（課題）が設定されたやり取りにおいては、店員役の児童が “What would you like?” と尋ね、客役の児童が、 “I’ d like a hamburger.” と返したのに対して、店員役の児童がその発言を受けて “Why?” と理由を尋ねたり、 “What color do you like?” と料理の注文と関係のない相手個人の情報を聞き出したりすることは、タスクの目的や場面、状況にそぐわないだけでなく、会話としても不自然である。この場合は、「レストランで注文する」という明確なタスク（課題）が設定されており、児童はタスク（課題）の達成に不要な質問をしてやり取りを続けることは求められていない。つまり、このようなタスク（課題）が設定されたやり取りにおいては、タスク（課題）が達成されることが最も重要なものであり、相手からさまざまな情報を引き出したり、話題が広がっていったりすることを意図して行われるわけではない。

一方で、本研究が目指す質の高いやり取りは、英語を用いた実際のコミュニケーションにおいて、一つ的话题を中心に、お互いのことをよく知り、理解することを目的として行われるやり取りを想定している。そのため、明確なタスク（課題）があらかじめ設定されたやり取りとは、その目的において異なっている。例えば、「冬休みに旅行したい県」という話題でやり取りをする場合では、相手の発話に応じて、児童がその場で適切な質問を繰り出し、相手から「長野県が好き→富士見高原に行きたい→スキーがしたい→スキーができる」というような、話題から派生した様々な関連情報を相手から引き出せることを重要視しており、あるタスク（課題）を達成すれば終わりという設定のやり取りとは目的が異なる。

3. 児童が扱うことのできる疑問文の種類について

外国語科において、児童が扱うことのできる疑問文については、学習指導要領解説の中で以下のよう

d 疑問文のうち、be 動詞で始まるものや助動詞（can、do など）で始まるもの、疑問詞（who、what、when、where、why、how）で始まるもの

疑問文のうち、be 動詞で始まるものや助動詞（can、do など）で始まるもの、疑問詞（who、what、when、where、why、how）で始まるものとは、yes-no 疑問文と wh- 疑問文のことである。yes-no 疑問文は、一般動詞の文の場合には do を文頭に付ける。動詞の形の変形が必要なこともある。be 動詞や助動詞の場合には、主語と be 動詞若しくは助動詞を倒置させる。

yes-no 疑問文の例

例1 A : Do you like blue?

B : Yes, I do.

例2 A : Are you from Canada?

B : No, I’ m not. I’ m from Australia.

例3 A : Can you dance well?

B : Yes, I can.

wh- 疑問文は、疑問詞を文頭に付けて、通常、文を疑問文の語順にする。

Wh- 疑問文の例

例1 A : When is your birthday?

B : It is March 10th.

例2 A : What time do you get up?

B : I usually get up at 6 : 00.

第2の1 (3) 「話すこと [やり取り]」アで示されている目標を達成するのにふさわしい、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄についての疑問文を取り扱うようにする。音声で十分慣れ親しませた上で疑問文とその応答の仕方などを言語活動の中で活用できるようにする。第2の2

(1) ア (エ) 「文における基本的なイントネーション」で解説したとおり、通常、yes-no 疑問文は上昇調のイントネーションで発音され、Wh- 疑問文は下降調のイントネーションで発音されることに留意する。小学校の外国語科では、or を含む選択疑問文、may や will などの助動詞で始まる疑問文、does や did で始まる疑問文、which や whose などの疑問詞で始まる疑問文は扱わない。

このように、児童が扱うことのできる疑問文については、一見多いように思えるが、未来の表現や過去形を使った疑問文、三人称を使った疑問文（助動詞 can を含む三人称を使った疑問文は除く）については扱うことができないことから、児童が自分で表現できる疑問文はかなり制限されている。そのため、現在形と can そして You を主語とした疑問文を中心に指導を行う必要があり、本研究においても、「習慣を尋ねる」「現在の状態を尋ねる」「できることを尋ねる」といった、児童が無理なく扱える疑問文を活用できるように、やり取りの目的や場面、状況を適切に設定することとする。

4. 疑問文を活用する（場に応じて質問する）ために必要な〔知識及び技能〕について

外国語科において〔知識及び技能〕の中で扱うべき疑問文の多くは、3・4年生の外国語活動で児童が慣れ親しんできたものである。特に “Do you like~?” や “What~do you like?” などの好きなものを尋ねる疑問文は、外国語活動の「ピザづくり」「自己紹介」などの単元の中での使用頻度が高く、児童にとって十分に慣れ親しんだものであり、好きなものを尋ねる表現として知っているはずである。しかしながら、実際の授業場面では、その知識が「ピザ作り」「自己紹介」という限られた目的や場面、状況の中でしか活用できないものになっていることが多く、異なる目的や場面、状況において、その知識を活用している姿をみることは稀である。つまり、児童の疑問文の〔知識及び技能〕は、どの場面で活用したかということを知覚しているだけで、様々な目的や場面、状況において活用できる汎用性のあるものになっていないのではないかと考えられる。

そこで、疑問文の〔知識及び技能〕を実際のコミュニケーションにおいて活用できる汎用性のあるものにするために、話すこと[やり取り]の領域において、どのような〔知識及び技能〕が必要になるのか考察する必要がある。石井(2015)は、目標分類学に関するこれまでの研究を踏まえれば、ある教科内容に関する学びの深さ（学力・学習の質）は、おおよそ三つのレベルで捉えることができると述べ、個別の知識・技能の習得状況を問う「知っている」（計算などが機械的にできることも含む）レベルの課題（例：穴埋め問題など）が解けるからといって、概念の意味理解を問う「わかる」レベルの課題（自己で判断して理由を答えるなど）が解けるとは限らず、さらに「わかる」レベルの課題が解けるからといって、現実世界の文脈における知識・技能の総合的な活用力を問う「使える」レベルの課題が解けるとは限らないと述べている。（図1）

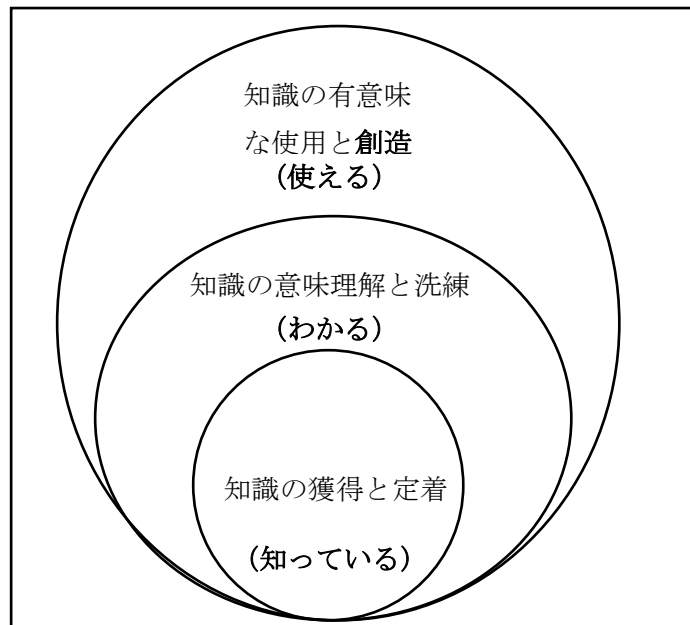


図1 「知っている知識」から「使える知識」になるまで

『新しい教育評価入門—人を育てる評価のために—石井（2015）より一部抜粋

本研究では、様々な目的や場面、状況において知識を活用する練習を、指導者が継続的な活動（帯活動）の中で児童に繰り返し行わせることで、児童の疑問文について「知っている知識」を疑問文について「わかる知識」に高め、そして疑問文を「使える知識」に変えることができると考える。本研究において、疑問文について「知っている知識」というのは、「疑問文の意味や語順といった言語形式に関する知識」であり、疑問文について「わかる知識」というのは、「児童が思考して、疑問文の表現が適切であるかを判断するための知識」であり、疑問文を「使える知識」というのは、「実際のコミュニケーションにおいて、話題や相手の言ったことに関連した質問をするための知識」とであると捉えている。（図2）

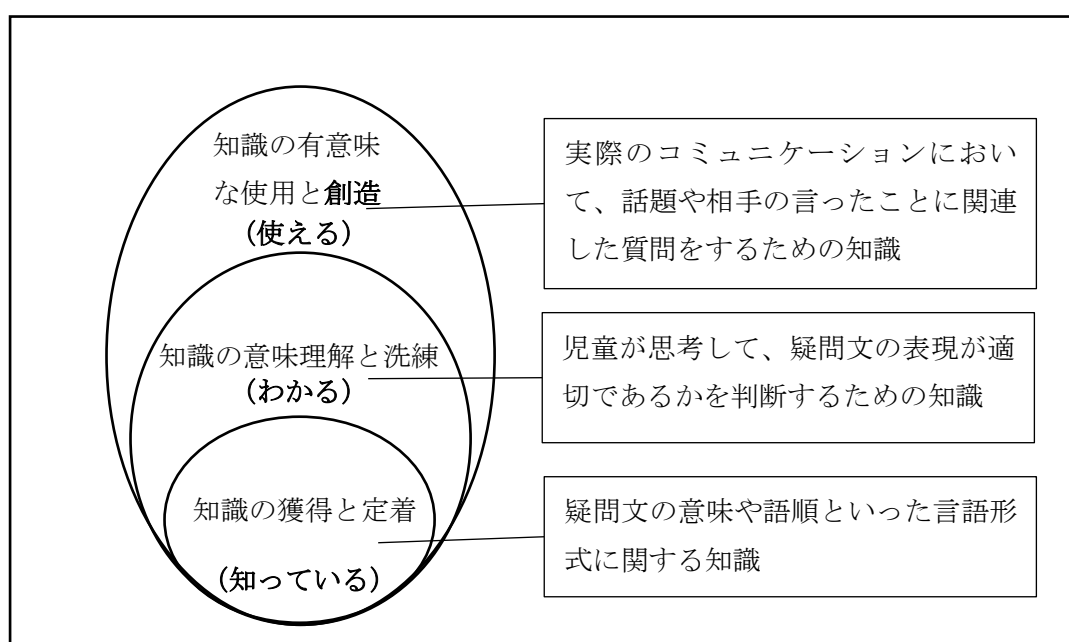


図2 本研究における外国語科の知識の高まりの捉え方

しかし、一方的な知識の教え込みや、単なるドリル学習やパターンプラクティスなどの活動では、この3つの知識の内、「知っている知識」と「わかる知識」の定着には、効果が見込めるが、実際のコミュニケーションにおいて「使える知識」を身に付けさせるためには、不十分であると考える。外国語科学習指導要領「エ文及び文構造」においても、「日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。」と示されており、本研究における継続的な活動（帯活動）の実践においては、この点に特に留意した。

5. 様々な目的や場面、状況の設定をした継続的な活動（帯活動）の具体

継続的な活動（帯活動）というのは、外国語科の授業の導入において、児童にこれから英語を使う時間であるという意識をもたせる雰囲気づくりや、授業に取り組む意欲を引き出すためのウォームアップとして大切な時間であると考える。

外国語の授業において、よく行われている継続的な活動（帯活動）の一つに Small Talk がある。この活動の目的としては、「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（平成 29 年 7 月文部科学省作成）」に、「(1) 既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図ること、(2) 対話の続け方を指導すること」の2点が示されている。ここから分かるように、Small Talk は、本研究が目指す質の高いやり取りを実現する上で、既習の疑問文の知識を技能に高めていく活動として非常に適していると言える。本研究においても、Small Talk の中で、意識的に児童が疑問文を活用できる仕掛けとして、一枚の写真から会話を始める活動や、インフォメーションギャップを使ったゲーム、疑問文を使ったルーレットゲームなども利用したいと考えている。これらの帯活動を通して、児童が疑問文の〔知識及び技能〕を活用する機会を増やすだけでなく、児童が自分で適切な疑問文を考えるような取り組みを行うことで、疑問文を活用するための〔思考力・判断力・表現力等〕も同時に養うことをねらいとする。

IV 研究仮説

外国語科において、児童が様々な目的や場面、状況を設定した帯活動で疑問文を継続的に活用することで、疑問文の知識を活用できる知識に高め、児童が話題や相手の発話に関連した質問ができるようになり、英語を用いた実際のコミュニケーションにおいて、話すこと[やり取り]の質が高まるであろう。

V 研究の方法と内容

1 研究の方法

- (1) 事前実態調査・意識調査を行い、児童の疑問文活用の現状や特徴を分析する
- (2) 本研究における話すこと[やり取り]の評価について
- (3) 疑問文を活用する力を高める帯活動の計画の作成
- (4) 検証授業の実施

ア. 研究の対象 県内公立小学校 第6学年 1クラス

イ. Unit名 Unit6 This is my town.

ウ. 検証授業の期間及び時間数

令和4年10月～11月（授業：8時間 朝学習：15分×4 事前・事後アンケート：1時間）

エ. 検証方法 授業記録（ビデオ・生徒観察） ・事前事後アンケート ・やり取りのマッピング

まず7月に事前意識調査アンケートを行い、「やり取りが好きかどうか」や、「やり取りの場面で意識していること」などを調査した。また、7月の時点で、児童がやり取り（ペア）において疑問文をどのように活用しているのかを調べるために、実際に「夏休みに行ってみたい都道府県」という話題で5分間の Small Talk を行い、事前実態把握調査を行った。このペアのやり取りを録画し、やり取りの内容をマッピングし、児童の活用した疑問文の数と内容の分析を行った。

このやり取りにおけるペアは、児童の英語の能力に関わらず、検証を行う上でやり取りがスムーズに行われるように、児童同士の人間関係を考慮して編成した。7月の事前実態調査と11月の検証授業の児童同士のやり取りは、このペアを変えずに実施した。ペアを変えずに検証を行うことで、やり取りの質の変化に及ぼす様々な要因をできるだけ排除するように工夫した。

なお、通常のパフォーマンステストでは、事前に評価基準を児童と共有することが大切だが、本研究のやり取りにおいては、効果検証のため児童には、事前に評価基準を公表せず実施した。

2 研究の内容

（1）事前実態調査・意識調査を行い、児童の疑問文活用現状や特徴を分析する

ア 事前実態調査の分析

本研究を進めるにあたり、検証授業前の時点で児童がどのような言語材料を活用することができるのか調査した。内容としては、児童がテンプレートのない Small Talk において、ある話題についてどのような疑問文を活用してやり取りを進めていくのかを調べるというものである。やり取りの話題については、背景知識の差によって、発話に差が生じてしまう恐れがあるため、児童にとって身近な話題である「夏休みに行きたい都道府県」という話題を選択した。事前に行ってみたい都道府県については、その特産物や観光名所を調べてくる宿題に取り組みせ、背景知識の不足からやり取りが進まないという事態に陥らないように工夫した。下の図3は、事前実態調査のやり取りにおいて、児童が用いた疑問文の数を集計した結果である。

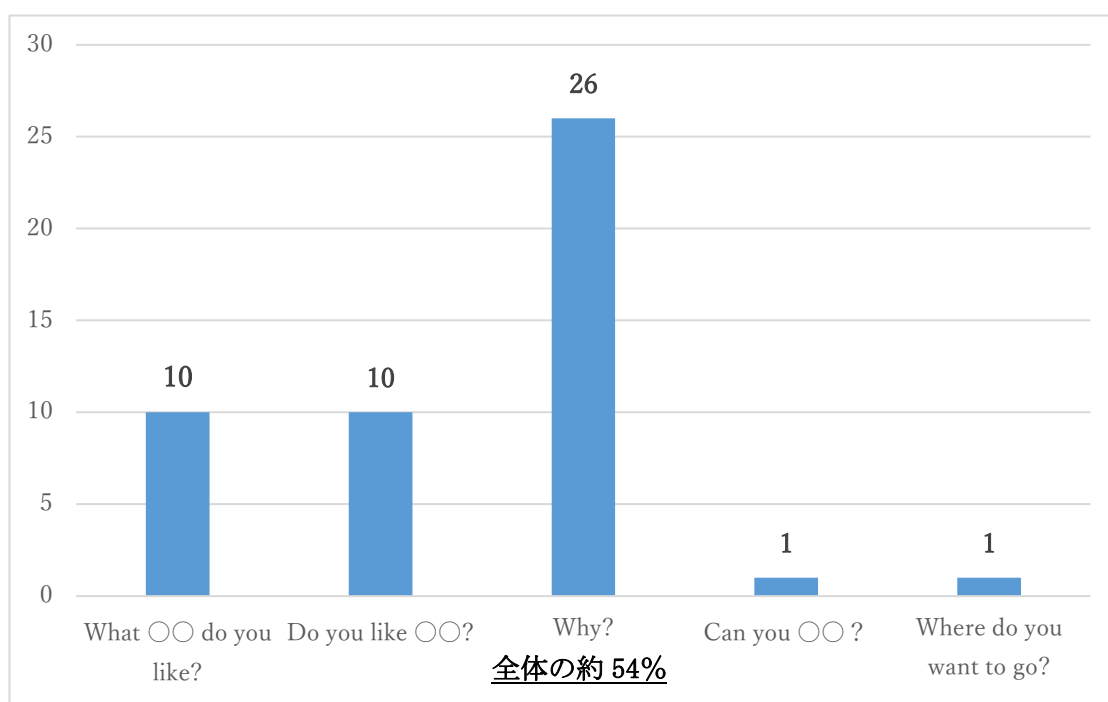


図3 事前実態調査のやり取りで活用された疑問文の数

このグラフから、児童が活用した疑問文の内、約 54%が “Why?” であることが分かる。この “Why?” は、相手が答える範囲に制約を設けず自由に答えることができる、いわゆる “Open Question(回答の範囲を制限しない質問)” の内、理由を尋ねる表現であり、その返答の仕方は当然やり取りの相手に全て委ねられている。しかし、小学校外国語科の段階では、発話できる語彙や表現に制約が大きいため、質問された側がその理由を英語で表現することは困難である。また、図 4 で示されたペアの会話例からも分かるように、相手がどんな発話をして、とりあえず “Why?” と質問してしまう傾向も見られた。このように、“Why?” は、やり取りにおける一種のテンプレートのように用いられており、そこには児童の思考が働いていないのではないかとと思われる。そこで、本研究では、“Why?” 以外の疑問文がやり取りの中で活用できるような練習を帯活動で行う必要があると考えた。

A B

A What prefecture do you like?

B I like Shizuoka.

A **Why?**

B I like fishing.

A **Why?**

B I like fish.

A **Why?**

B Fish is maguro.

A Nice. **Maguro is eat?**

B I like Sushi.

A Nice. Thank you.

B Thank you. What prefecture do you like?

A I like Hokkaido.

B **Why?**

A What do you want to go to ... sea.

B **Why?**

A I like fish.

B Me too. Thank you.

A Thank you.

分かったこと

```

graph BT
    A[静岡] -- "Why?" --> B[釣りが好き]
    B -- "Why?" --> C[Fishing is マグロ?]
    C -- "?" --> D[お寿司が好き]
    
```

やり取りの特徴

児童 B の「静岡が好き」という発話にして、児童 A が “Why?” とその理由を尋ねた。それに対して児童 B は、「釣りが好きだから」と理由を答えたにも関わらず、児童 A は” Why?” と繰り返しその理由を質問している。その後、質問の順番が児童 B に回ってきても、同じように児童 A に対して “Why?” と理由のみを繰り返し質問している。

図 4 やり取りにおける “Why?” の使われ方と特徴

イ 事前意識調査の分析

英語によるやり取りに対して、児童がどんな印象をもっているのか、またやり取りに際してどんなことを意識しているのか、図5のアンケートを用いて意識調査を行った。その結果（図6）、研究の対象クラスの児童の内「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童が約77%となり、やり取りに対して肯定的な印象をもっていることが分かった。また、やり取りでどんなことを意識しているかという問いについては（図7）、「話を続けること」は意識できているが、本研究で大切にしているやり取りを深めるための「質問の内容」については、あまり意識されておらず、「リアクション表現」や「アイコンタクト」、「声の大きさ」といったノンバーバルコミュニケーションに注意が向いていることが分かった。

外国語科に関するアンケート

このアンケートは、あなたの普段の外国語科の授業についてたずねるものです。成績をつけるものではなく、自分が思った通りに答えてください。

下書きを復元しました

質問1 英語でやりとりをすることは好きですか？

☐ 好き

☐ どちらかと言えば好き

☐ どちらかと言えば嫌い

☐ 嫌い

質問1の理由を教えてください。

回答を入力

授業中に英語でやりとりをする活動がどれくらい行われていますか？

☐ よく行われている

☐ 行われている

☐ あまり行われていない

☐ 行われていない

質問2 英語でやりとりをする時にこれまで授業で習ってきた表現を使おうとしていますか？

☐ よく使おうとしている

☐ 使おうとしている

☐ あまり使おうとしていない

☐ 使おうとしていない

質問3 英語でやりとりをする時にどんなことに気を付けていますか？当てはまるもの全てに☑をしてください。いくつでも選んでかまいません。その他の場合は、具体的に書いてください。

☐ 声の大きさ

☐ アイコンタクト（相手と目を合わせて話す）

☐ 表情・ジェスチャー（身振り手振り）

☐ リアクション表現（I see. Me too.などの主に相づちのような表現）

☐ 質問の内容（どんな質問をするか）

☐ 会話を続けること

☒ その他: _____

質問4 英語でやりとりをする時にどんなことに困りますか？いくつでも選んでかまいません。その他の場合は、具体的に書いてください。

☐ 自分の考えを持つことができない

☐ 自分の考えを英語で表現できない

☐ 相手の発言が理解できない

☐ 会話の続け方が分からない

☐ 特になし

☐ その他: _____

図5 事前意識調査アンケート

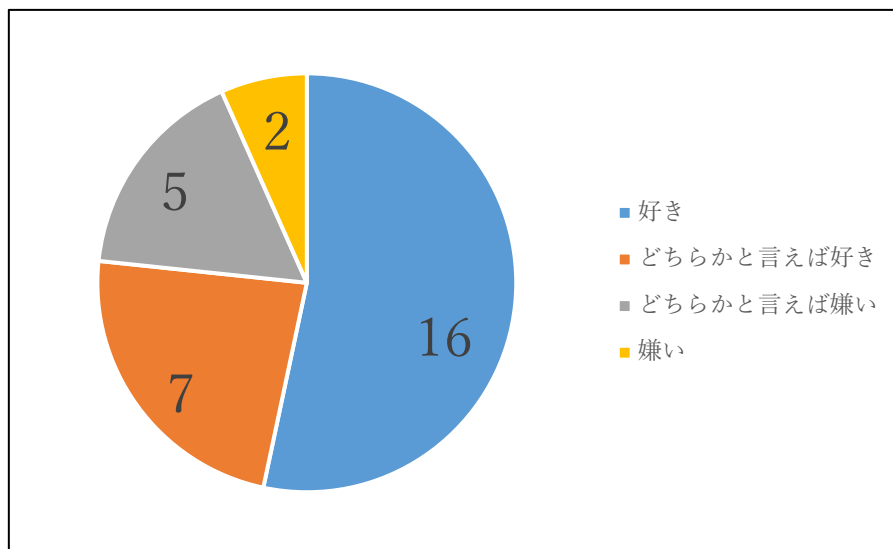


図6 事前意識調査アンケートの結果（やり取りが好き）

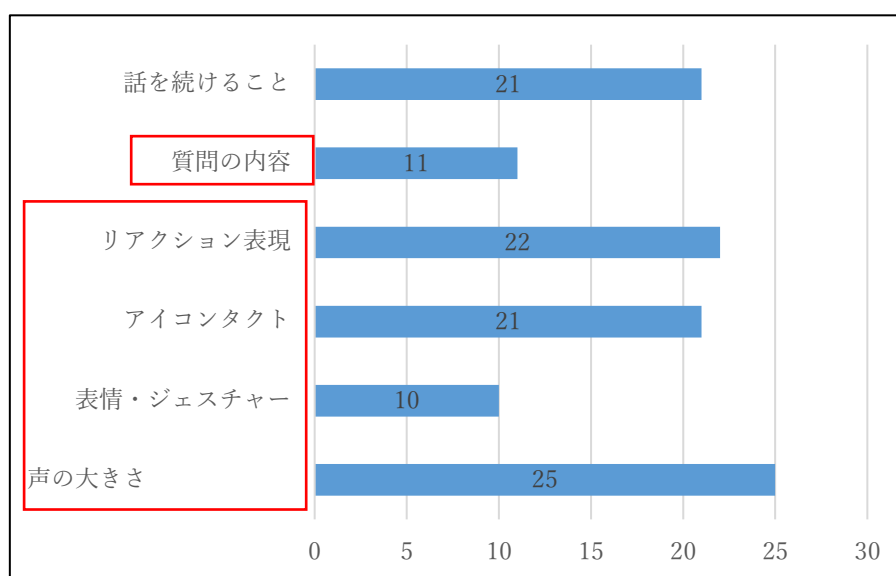


図7 事前意識調査アンケートの結果（やり取りで意識していること）

（２）本研究における、効果検証のための評価基準について

疑問文を活用する力を伸ばす継続的な活動（帯活動）を通じた指導が、児童の話すこと[やり取り]の質を高めることに効果的であったかどうかを検証するため、検証授業の単元の評価基準とは別に、効果検証のための評価基準を作成した（表１）。

（１）の事前実態調査より、“Why?”のみを活用したやり取りは、児童が話題や相手の発話を受けて質問しているとは言えず、“Why?”を思考を働かせずに一種のテンプレートのように使用しているという状況を踏まえ、本研究では、「思考・判断・表現」の評価基準として“Why?”以外の疑問文を活用した数に基づき評価の段階を設定した。

この評価基準に基づき、事前実態調査と検証授業における、児童のやり取りをそれぞれ評価し、帯活動の指導によって児童のやり取りがどのように変化するかを検証することにした。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	既習の疑問文を使って、 誤りのない表現で 相手に話している。 (※Why?以外の既習の疑問文を1つ以上使用している場合が最低条件)	より相手のことを知るために、リアクション表現や 既習の疑問文(Why?を除く) を 2つ以上 活用して、話題や相手の発話に関連した質問をその場で考えてやり取りをしている。	より相手の事を知るために、リアクション表現や既習の疑問文(Why?を除く)を2つ以上活用して、話題や相手の発話に関連した質問をその場で考えてやり取りをしようとしている。
b	既習の疑問文を使って 相手に伝わるように 話している。 (Why?以外の既習の疑問文を1つ使用している場合が最低条件)	より相手のことを知るために、リアクション表現や 既習の疑問文(Why?を除く) を 1つ 活用して、話題や相手の発話に関連した質問をその場で考えてやり取りをしている。 (※但し、【知識及び技能】においてb以上の場合。)	より相手の事を知るために、リアクション表現や既習の疑問文(Why?を除く)を1つ活用して、話題や相手の発話に関連した質問をその場で考えてやり取りをしようとしている。
c	「b」を満たしていない (※使用している既習の疑問文がWhy?のみ/疑問文を使用する際に、日本語を使用している場面がある)	「b」を満たしていない (※リアクション表現やWhy?のみを使って会話をしている。)	「b」を満たしていない

表1 本研究の話すこと[やり取り]における評価基準

(3) 継続的な活動の意義について

本研究における継続的な活動の目標は、児童が、思考を働かせない決まりきったやり取りから脱して既習の疑問文を場に応じて活用できるようにすることである。和泉(2016)は「英語の習得であろうが、日本語の習得であろうが、変わらない重大要素が三つある。この要素は、子どもの母語習得であっても、大人の第二言語習得であっても変わらない。(中略)その一つは、言語形式(form)である。文法規則、語彙、イディオム、発音形態といった言語形式を身に付けずして、言葉を使いこなすことは不可能である。二つ目の要素は、意味内容(meaning)である。言葉は形式だけでは成り立たない。その中に伝える意味内容があるからこそ、それを伝える手段となる形式が重要になる。手段となるトピック、テーマ、もしくは伝えるべきメッセージと言ってもいいだろう。最後の三つ目の要素は、言語機能(function)である。言葉がどういった場面で、何の役割を果たすために使われるのか。コンテキスト、状況、タスク、使用目的と呼んでいいだろう。」と述べている。つまり、小学校外国語科においても児童が、質の高いやり取りを行うためには、言語機能を中心とした活動だけでなく、言語形式と意味内容を含めた言語活動を行うことが必要不可欠であると考え。そのため、本研究における継続的な活動は、疑問文の音声面のみを想起するための活動ではなく、その疑問文が「どんな意味なのか」また「どんな使われ方をしているのか」、そして「語順がどうなっているのか」といった、言語習得の3要素を含めた活動となるよう工夫した。

(4) 第二言語習得の3要素を含めた活動の具体

児童が、既習の疑問文を実際のコミュニケーションにおいて活用するためには、指導者が言語材料の言語機能だけでなく、意味内容や言語形式についても念頭に置いて指導を工夫する必要がある。本研究の継続的な活動（常活動）の中では、外国語活動の中では明示的に指導することが少ない単語の意味や語順についても、より児童が、注意を払い理解が深まるような活動を行った。

ルーレットゲーム（図8）

小学校高学年の段階で既習疑問文に汎用性を持たせることができるように、単語の入れ替えが可能な部分を□にしている。そこに入る単語をルーレットで決め、その単語を□に当てはめて質問をしたり、答えたりすることで、児童に既習疑問文を様々な目的や場面、状況で活用できることに気づかせることをねらいにしている。また、品詞ごとに色分けすることで、中学校で学習する「動詞」「名詞」などの品詞についても視覚的に理解できるように工夫した。

ルーレットゲームを通して、十分にその音声や語順について学習した後に、単語の並びかえクイズを行う事で、英語の形式面の指導（特に語順に対する気づき）をクラス全体に行う。

学習できる言語材料（疑問文）

Can you ○ □?/What □ do you like?/ What do you want to □?/ What's your favorite□?

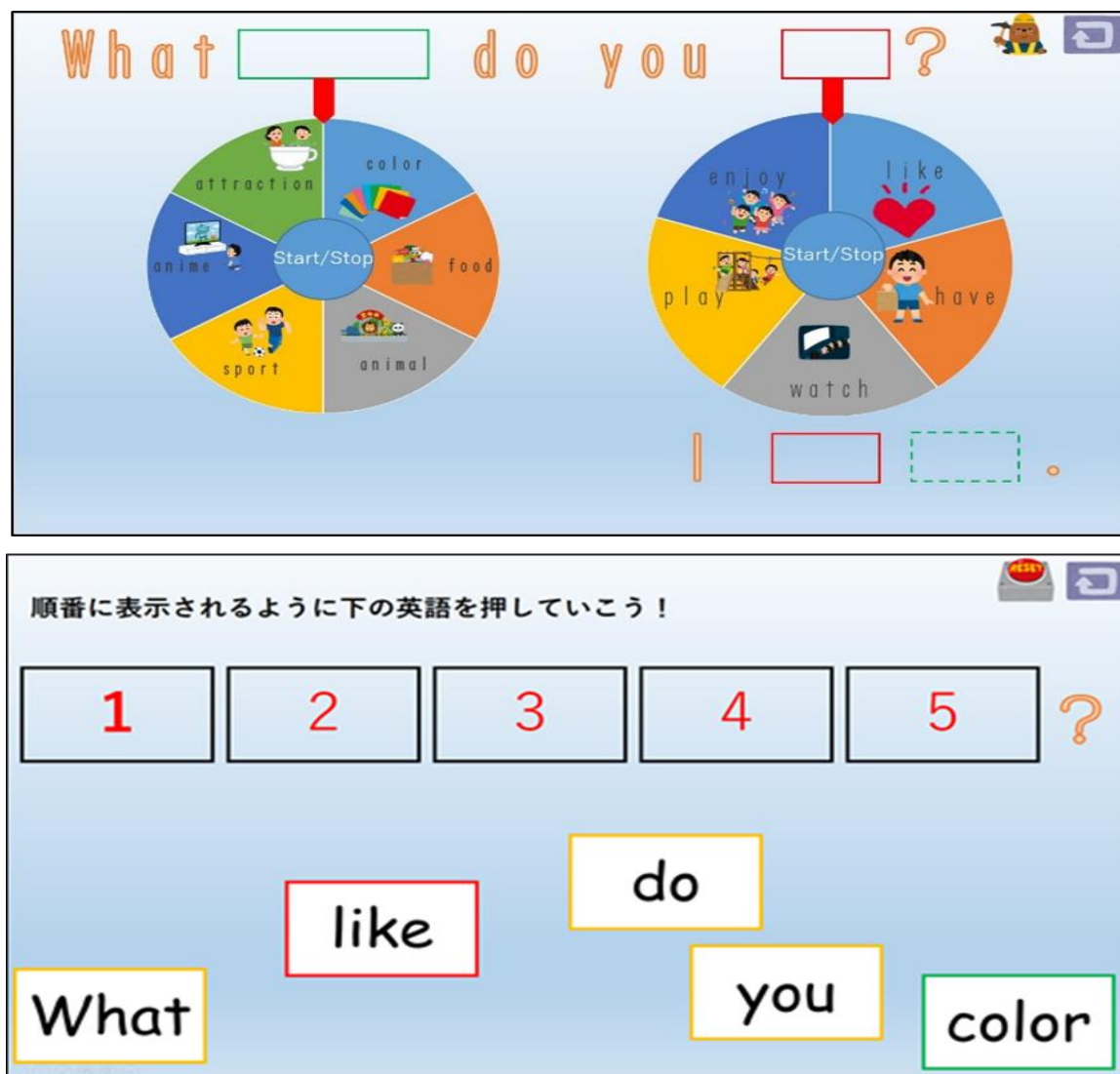


図8 ルーレットゲームのパワーポイント教材

実際のパワーポイント教材の紹介→



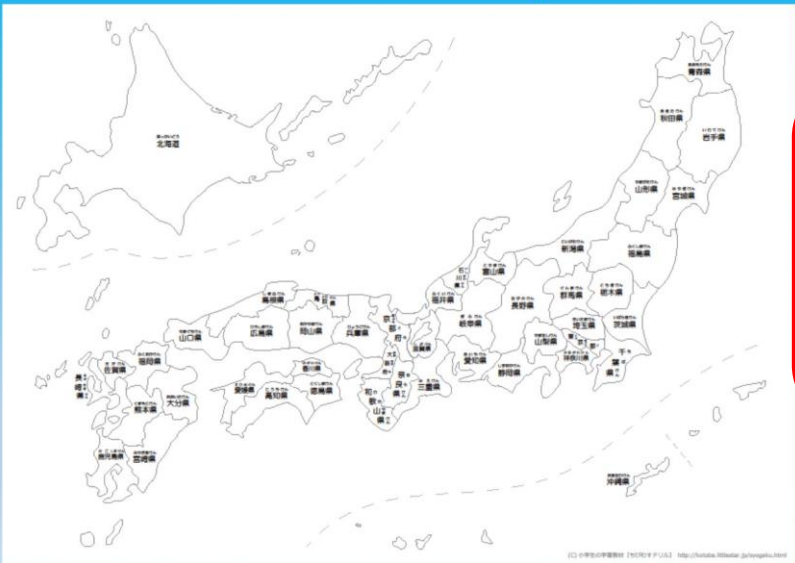
トラベルゲーム(図9)

ペアでじゃんけんをし、負けた方が“Where do you want to go?”と聞き、勝った方が“I want to go to ○○.”と答えて、より多くの都道府県を旅行していくゲームである。ゲームを始める前に、“Where do you want to go?”の疑問詞“Where”の意味と“want to”の意味を理解させてからゲームをすることで、既習疑問文の形式面の理解も促す。トラベルゲームを通して、十分にその音声や語順について学習した後に、単語の並びかえクイズを行う事で、英語の形式面の指導（特に語順に対する気づき）をクラス全体に行う。

学習できる言語材料(疑問文)

Where do you want to go?

The travel game



ゲームのルール

- 好きな都道府県を一つ選ぶ
- ペアの友達とじゃんけんをする
負け=Where do you want to go?
勝ち=I want to go to _____.

↑
都道府県
- 制限時間内で多くの都道府県に旅行に行こう！

順番に表示されるように下の英語を押していこう！

1

2

3

4

5

6

?

want

go

Where

you

do

to

図9 トラベルゲームのパワーポイント教材

“Where do you want to go?” の形式面の理解を促す動画教材の紹介→



Hidden Picture Game (図 10)

パネルの後ろにどんな写真が隠れているかを当てるゲーム。めくりたいパネルを決めて、“What do you want?” の問いに対して 挙手をして指名された児童が “I want white twelve.” のように答えてパネルをめくっていく。残りの児童全員で “What do you want?” と繰り返し発話をする事で、「欲しい物を尋ねる」英語の練習を十分に行う事ができる。また、“What do you want?” の英語としての意味を活動の前に全体で確認をして、児童が英語の意味を理解した上で練習できるようにした。背景を Unit 中の単語が示すものの写真に設定すると、語彙の練習にもなる。

学習できる言語材料 (疑問文)

What do you want?

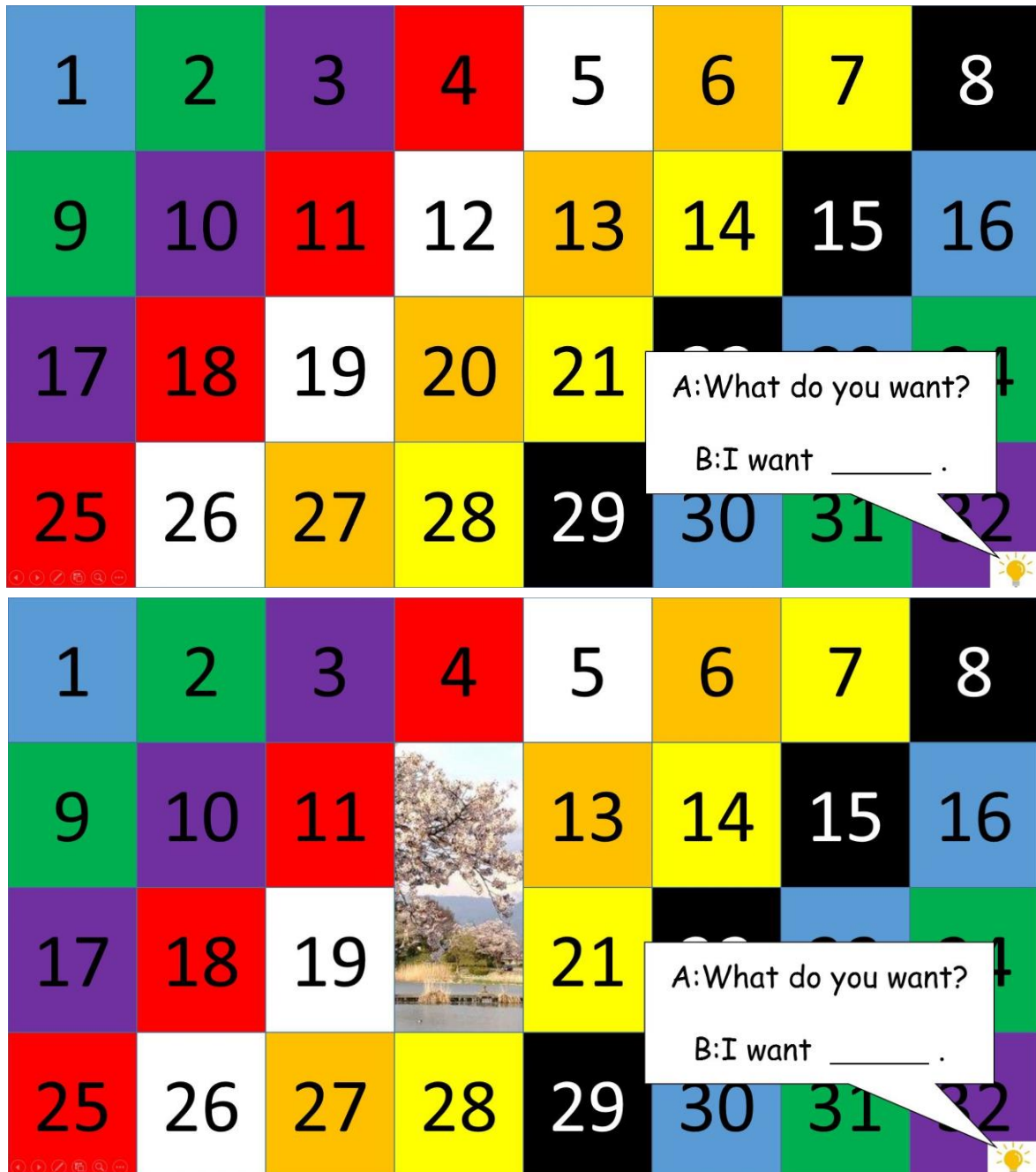


図 10 Hidden Picture Game のパワーポイント教材

“What do you want?” の形式面の理解を促す動画教材の紹介→



Open Question と Closed Question の違いについての授業 (図 11)

外国語活動から慣れ親しんできた “Do you like □?” という Closed Question(回答を限定する質問)と “What □ do you like?” という Open Question(回答の範囲を制限しない質問)の違いを理解している児童が少ないということが振り返りシートから分かったため、これらの違いについて理解を促す授業を行った。

学習できる言語材料 (疑問文)

What □ do you like? / Do you like □? / What do you want? / Do you want □?

英語版を見てみましょう。

質問に答えてください。



Do you like apples?

Yes, I do.
No, I don't.



I like oranges.



Yes, I do. I like apples.
No, I don't. I like oranges.



英語版を見てみましょう。

質問に答えてください。



What fruit do you like?

Yes, I do.
No, I don't.



I like oranges.



Yes, I do. I like apples.
No, I don't. I like oranges.



図 11 Open Question と Closed Question の違いについてのパワーポイント教材

実際のパワーポイント資料の紹介→



英語の形式面の理解を促す動画教材（家庭学習用教材）

言語材料の「意味内容」「言語形式」の指導に限られた授業時数の中で実施することが困難であったため、児童が家庭で学習ができるように動画教材を作成した。小学校外国語科学習指導要領解説の〔知識及び技能〕（１）英語の特徴やきまりに関する事項の中に、「中学校の学習内容に踏み込まない注意が必要」と記載されているため、動画内では、文法用語や用法説明を行わないが、児童の「言語形式」に対する気付きを促すように工夫した。本研究のねらいでもある、「場に応じて質問をする力」を身に付けるために、動画の中でキャラクター達が対話をしながら既習疑問文のどこを変えれば、どのような意味に変わるのかが分かるような構成となっている。

検証の対象校では、一人一台端末の持ち帰りが積極的に行われており、今回作成した動画も週末に補助教材として視聴するように促した。

児童の動画に関する感想（持ち帰り動画教材に対するアンケート結果より）

編集が上手い分かりやすい

英語力が高められるからいい。動画は、一つ一つ丁寧だからわかりやすい。

見ておくだけでも英語が身につきました。

英語についてよくわかった

家で、見たいときに復習できるからいいと思う。動画がわかりやすかったので、また見たいとおもった。

もう少し短くしてほしい

とても楽しかった。わかりやすかった。

学びやすいなーと思った

家でも学校の授業ができるので少し不思議な感覚で楽しめました

短い動画だったから見やすかった

自分で英語を覚えられる

家にクロームを持って帰るのが大変（重いから）　けど動画はわかりやすいし、面白い

ユーチューブみたいに楽しく見れた。家でやるのは楽しかった。

家でできるし分かりやすい

今まであまりこういう英語の動画は見たことがなかったのでいい機会になった

必ずやるからいいと思う。宿題が減って嬉しい

時間がなくて見れなかった事がある　面白いしわかりやすかった

少しめんどろだけだけど面白いから楽しく学べると思いました

土日に家で練習できるからいいわかりやすい

動画は凄くわかりやすいです。実際に発言したときに覚えられた気がしました。AI の言葉をもうちょっと早くしてもらいたいです。

分からない英語を自分のやり方で勉強できるので良いと思う

振り返ることが良かった

（本研究で作成した動画教材は補助資料に QR コードを掲載）

（５）実際のコミュニケーションに近い即興性のある活動

児童が、既習の疑問文の言語機能や意味内容、言語形式について一定程度の理解ができた後に、既習の疑問文を場に応じて活用する練習ができるように、即興性のある活動を設定した。この活動の中では、児童は自分の表現したいことを、その場で判断し、表現する必要があるため、実際のコミュニケーションに近い形で疑問文を活用する練習を行うことができる。

一枚の写真から

図 12 のような写真をクラス全体で共有して、その写真を使ってどんな質問ができそうか、図 13 のパンフレットを活用しながら質問をする。単なる一問一答にならないように、前の児童が質問した内容をさらに深める質問ができないか、投げかけるようにした。実際に “Do you like fishing?” の質問の後に、“What (kind of) fish do you like?” と質問して、やり取りを継続させようとする姿が見られるなど、活動の効果がうかがえた。既習の疑問文について、ある程度理解が深まってきた段階で、この活動を行う事で、児童が実際のコミュニケーションを行う前に、疑問文を活用する仕方をシミュレーションすることができた。



図 12 活動で使った写真の一例 pixabay <https://pixabay.com/ja/>

海や湖の写真を使って児童が多く活用した疑問文の例

- Can you swim?
- Do you like fishing?
- Do you like the sea (lake)?

食べ物の写真を使って児童が多く活用した疑問文の例

- Do you like ○○?
- What ○○ do you like?
- Can you eat ○○?

スポーツ系の写真を使って児童が多く活用した疑問文の例

- Can you play ○○?
- Do you like ○○?
- What team do you like?

に入る英語

	movie
	character
	place
	subject
	team

ルーレットゲームの極



英語のしくみを理解
すると世界が広がる！



Name

に入る英語

	buy
	ride
	see
	watch
	enjoy

まだ知りたい人は、教科書 p 132 ~ 133 を見ましょう！

自分が知らないことをたずねる質問

A どんな□が好きか質問する
What do you like?

B 何が欲しいか質問する
What do you want?

C お気に入りの□を質問する
What's your favorite ?

D どこに行きたいか質問する
Where do you want to go?

E 何を○したいか質問する
What do you want to ?

 自分の考え/意見を確認する質問

F □が好きかどうか質問する
Do you like ?

G □が欲しいかどうか質問する
Do you want ?

H □を持っているかどうか質問する
Do you have ?

I できることを確認する質問
Can you ?

に入る英語

	attraction
	color
	food
	animal
	sport
	anime

に入る英語

	play
	play
	play
	swim
	eat
	drink

図 13 授業で活用した実際のリーフレット

Small Talk (マッピング)

帯活動の中で実際のコミュニケーションに最も近い活動として Small Talk を行った。話題としては、児童にとって身近なこと（図 14）や、既習の疑問文の活用がしやすいテーマを選んだ。本研究においては、「好きな食べ物」「夏休み行ってみたい都道府県」「冬休み行ってみたい都道府県」「行ってみたい国」といった話題で Small Talk を行った。やり取りをマッピング化（図 15）することで、話題や相手の発話を意識することが可能となり、自分がどんな質問をしたのかを、Small Talk 後に児童自身が振り返ることもできるように工夫した。

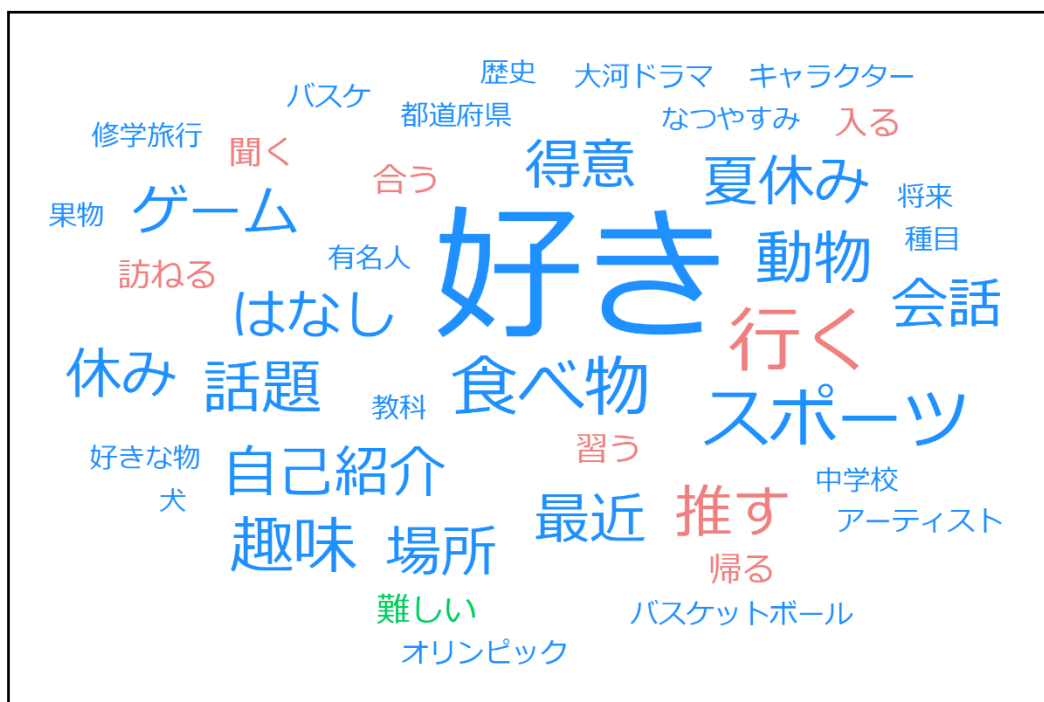


図 14 児童の Small Talk で話したい話題のテキストマイニング

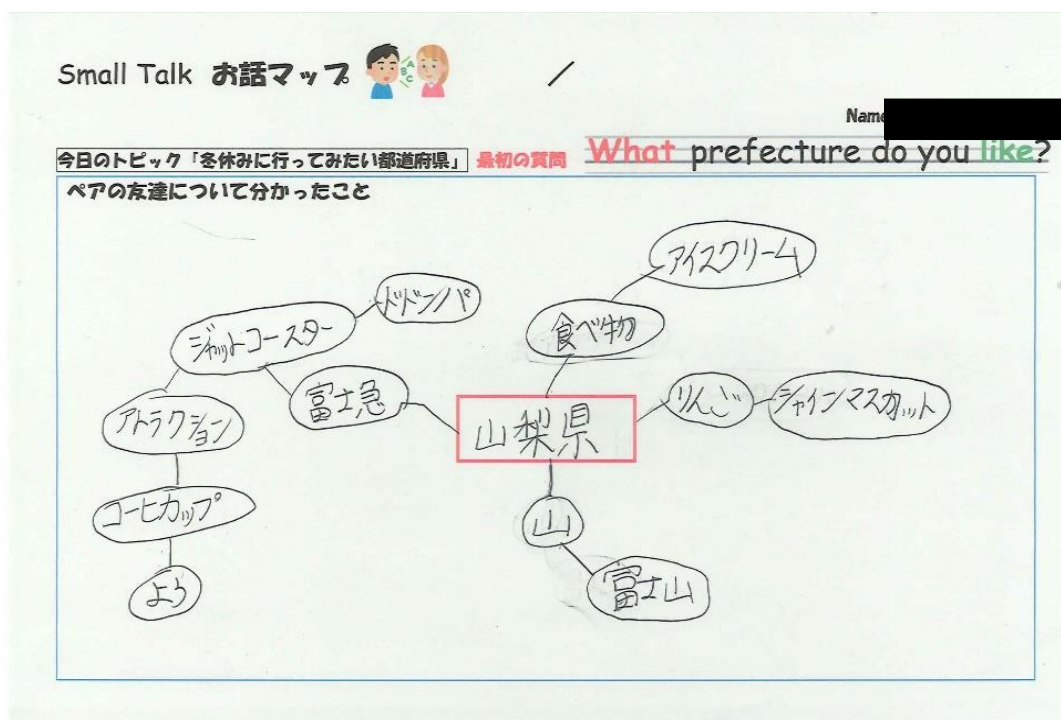


図 15 児童が実際に作ったお話マップ

（６） 継続的な活動（帯活動）の進め方（図 16 17）

本研究における継続的な活動（帯活動）では、まず児童が目標となる既習疑問文の意味をスキットの中で推測したり、思い出したりすることから始めた。そして、指導者は意味が正確に理解できているか、疑問文のどこを変えればどのような意味になるのか、またどのような順番で発話すればよいのかについて明示的に説明を行った。次に、児童の理解を踏まえ、第二言語習得の３要素を含めた活動を行った。最後に、学習した言語材料について分かったことについて振り返りを行わせることで、児童がより言語材料の意味や語順について意識できるように工夫をした。

この一連の継続的な活動（帯活動）の流れ（表２）を毎時間行うことで、児童が単に活動を楽しむだけでなく、言語材料の３要素を意識して活動に取り組めるのではないかと考えた。また、研究協力校では、毎週水曜日の朝学習（20 分間）が英語学習に充てられているため、週に２回の単元の授業における前半１５分の帯活動（表３）だけでなく、この朝学習も継続的な活動の１つとして活動を行った。

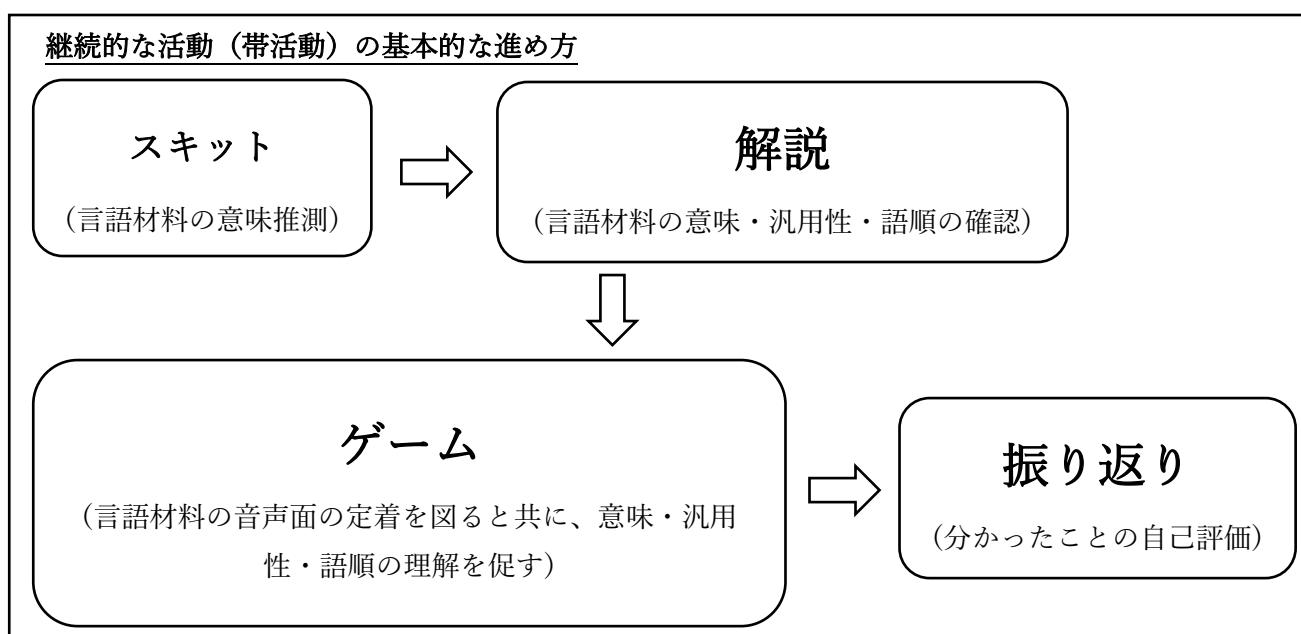


図 16 本研究における継続的な活動（帯活動）の流れ

9/7	9/14	9/21	9/28	10/5
オリエンテーション	ルーレットゲーム (What's your favorite○○?)	トラベルゲーム (Where do you want to go?)	ルーレットゲーム (Can you ○○?)	ルーレットゲーム (What ○○ do you like?)
10/12	10/19	10/26	11/1	11/9
ルーレットゲーム (What do you want to ○○?)	ルーレットゲーム (What do you want to ○○?)	一枚の写真から	一枚の写真から Hidden Picture Game(What do you want?)	Small Talk Hidden Picture Game(What do you want?)

表 2 20分間の朝学習の計画

①/8	②/8	③/8	④/8(検証)	⑤/8	⑥/8	⑦/8	⑧/8
トラベル ゲーム (Where do you want to go?)	一枚の写真 から	Small Talk	一枚の写真 から	Hidden Picture Game (What do you want?)	Small Talk	Small Talk	

表 3 単元における 15 分間の帯活動の計画

※(Open Question と Closed Question の違いについての授業は、別に 1 時間 (45 分) で行った)

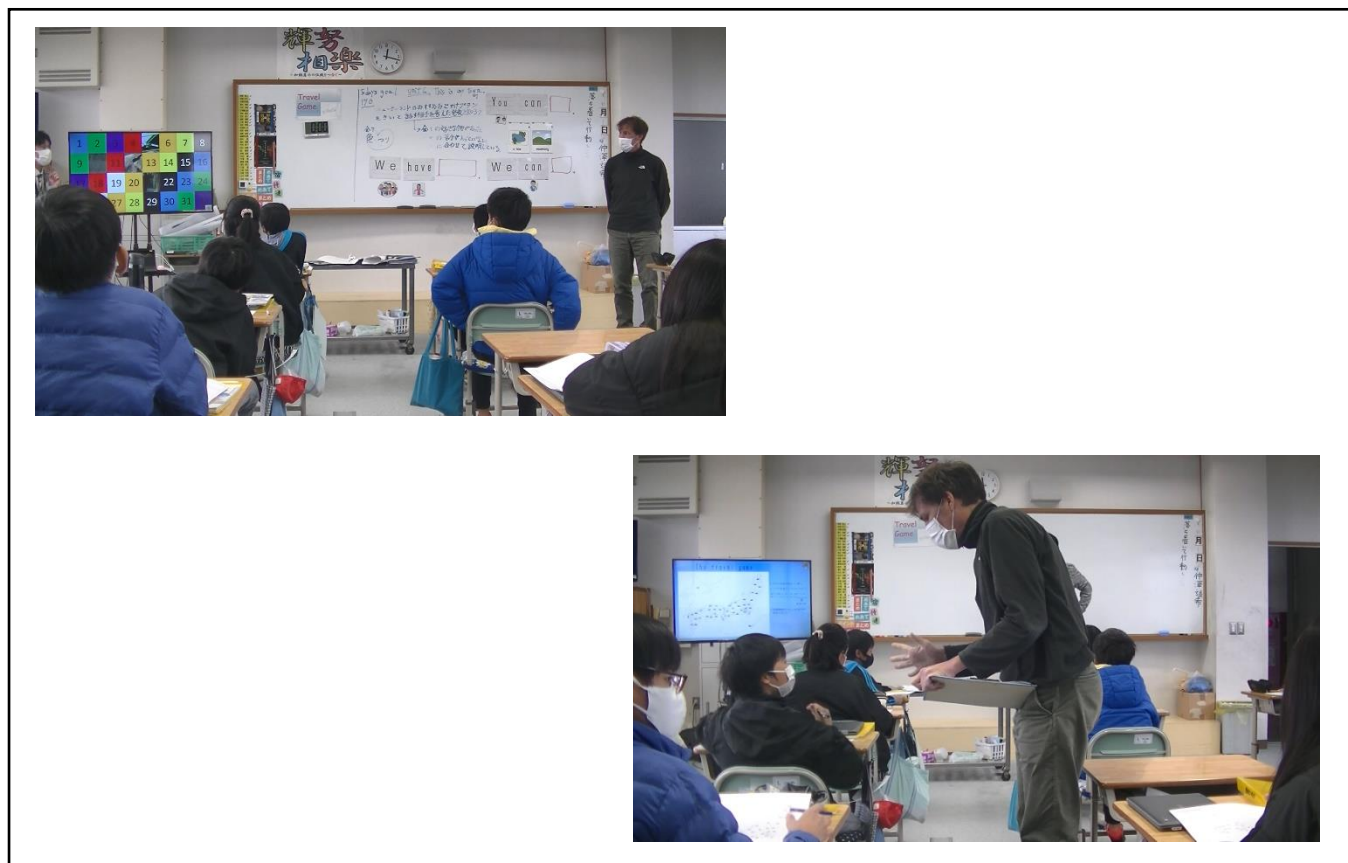


図 17 帯活動の様子

継続的な活動（朝学習）の実践

9月7日（水） オリエンテーション

3分	・ 自己紹介
12分	・ 振り返りシートの使い方説明 ・ 朝学習のめあて「話題や相手の言ったことに関係する質問をして、より友達のことを知ろう」を記入 ・ めあての説明

9月14日（水） ルーレットゲーム（What's your favorite ○○?）

3分	・ 朝学習のめあての確認
3分	・ ALT との Skit を通して、“What's your favorite ○○?” の意味を推測 ・ 言語材料の意味・汎用性・語順を児童と確認する
7分	・ ルーレットゲームで繰り返し練習 ・ ペアで今日の言語材料を活用してやり取り練習 ・ 一人一台端末で単語の並びかえクイズ
2分	・ 今日の振り返り



④今日の疑問文を活用してペアでやりとり



⑤一人一台端末で疑問文並び替えクイズ

児童の振り返り内容

図 18 9/7・9/14 の朝学習の様子

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
9/14	楽しくて 楽しく勉強ができてうれしい favorite の言い方が 思ってたよりかんたんだ。友だちと話すときはもうかてきた。 ルーレットゲームもたのしかった。日常会話で使ってみようと思った。 ④ 楽しくできてよかった。普段使ってみることが英語をより身近に感じました。

意欲

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
9/14	うまく今日習った質問の仕方でどなりの人とやり取りができました。次回は今回より相手のことをくわしく聞けるようにしたいです。今回習ったことを今後も使っていきたいと思いました。 ⑥ やり取りの目標がよくいきできています。1つ1つ道具を練習していきましょう。

意欲

図 19 9/7・9/14 の朝学習の振り返り

活動の振り返り

児童の振り返り内容から、「学習する活動そのものが楽しい」という事が、「言語材料を実際に活用してみよう」という意欲面を高めるということが分かる。また、継続的な活動（帯活動）を始める前にめあての確認をすることで、「今日習った質問の仕方でのたりの人とやり取りができた」という振り返りから分かるように、楽しみながらも、継続的な活動（帯活動）のねらいである「話題や相手の言ったことに関する質問をして、より友達のことを知ろう」を常に意識できていることが分かる。めあての確認をせずに行うと「〇〇ゲームが楽しかった」という活動に対する感想のみになる傾向があるので、このようなゲームの要素を取り入れた学習をする時には、活動のめあてを確認することはとても大切である。

9月21日（水） トラベルゲーム （Where do you want to go?）

5分	- ALT との Skit を通して、“Where do you want to go?” の意味を推測 - 言語材料の意味・語順を児童と確認する
7分	- ペアでトラベルゲームを行う - 一人一台端末で単語の並びかえクイズ
3分	今日の振り返り



図 20 9/21 の朝学習の様子

児童の振り返り内容

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
／	今日のやったことは where do you want go? をやって、前の勉強（つなげてつかえそう）。 ◎ 前の勉強とつなげるとこんな会話ができて、その考え方が...
	ストラテジー
日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
9/21	where を what に関心がくることがありました。 ◎ いい気づきです。まちがえやすいところでは。
	言語形式

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
9/21	日常会話どうが入ろう。 Travel Game は、楽しく勉強できたりするからいいと思う Want のいちで Where の一方がむずかしかった ⑥ 楽しくできてもまだ本がよかったです。'What' 'Where' も難しいが自分が聞こえたようにカタカナで読み書きのものです。

言語形式

活動の振り返り

図 21 9/21 の朝学習の振り返り

“Where do you want to go?” と前回学習した “What’s your favorite○○?” をどのように組み合わせてやり取りを深めるかという、コミュニケーションストラテジーについて考え始めている児童がいたことにとっても驚いた。このような既習疑問文の活用に対する意欲の高まりは、児童全体で共有してクラス全体の既習疑問文の活用という点に目を向けさせた。

また、疑問詞 “Where” “What” の違いについて振り返りをしている児童が多くいた。これは、これまで外国語活動の中で疑問詞そのものに注目して意味の確認などを行っていなかったもので、本時の中で、言語材料として意味や語順を確認することで、その違いについて気付く児童が多かったのではないかと考える。

9月28日（水） ルーレットゲーム（Can you ○○?）

5分	- ALT との Skit を通して、“Can you ○○?” の意味を推測 - 言語材料の意味・汎用性・語順を児童と確認する
7分	- ルーレットゲームで繰り返し練習 - ペアで今日の言語材料を活用してやり取り練習 - 一人一台端末で単語の並びかえクイズ
3分	今日の振り返り

児童の振り返り内容

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
9/28	相手のできることを聞けることができた。次はもっと話題を広めていきたい ⑥ 1つ質問できる道具が増えていますね。

ストラテジー

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
9/28	金子先生のむすこさんに質問です。 Can you write ? ゲームも楽しかったです。 ⑥ Yes, he can. He can write us かな。質問

汎用性

図 22 9/28 の朝学習の振り返り

活動の振り返り

本時では、“Can you ○○?” の表現を使って、ペアの相手に “Yes, I can.” と答えてもらうためにどんな英語を○○に入ればよいかという思考を促した。児童は、「できることを聞く」という、本時の言語材料や活動そのものに関することだけでなく、「次はもっと話題を広めていきたい」というように、話題をどのように広めていくかというコミュニケーションストラテジーに関わることまで考えていたことが分かった。

また、○○に何を入れるかというゲームを通して、言語材料の汎用性について理解が深まったことが分かった。動詞や名詞という概念がない小学校外国語科の段階でも、児童が一生懸命に学習した表現を様々に活用しようとしている姿が見られた。

10月5日（水） ルーレットゲーム（What○○do you like?）

5分	- ALT との Skit を通して、“What ○○ do you like?” の意味を推測 - 言語材料の意味・汎用性・語順を児童と確認する
7分	- ルーレットゲームで繰り返し練習 - ペアで今日の言語材料を活用してやり取り練習 - 一人一台端末で単語の並びかえクイズ
3分	今日の振り返り

児童の振り返り内容

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
	日本語も英語も同じ意味だからこたえ方を まちがえないようにきおつけたいです ⑥ 難しく考えないで、日本語と同じだと思ってね?

意味内容

図 23 10/5 の朝学習の振り返り

活動の振り返り

本時では、“What color do you like?” と “Do you like red?” の違いについて、前半5分を使って確認をした。児童は、この二つの表現を「好きな色を尋ねる表現」という認識は持っていたが、語順や意味を確認していく過程で、前者が Open Question、後者が Closed Question であることに気づくことができた。これにより、意味を考えて、どのように答えれば良いのかが分かったようである。

このように、二つの疑問文について、その違いを児童に考えさせたことが効果的であったと思う。その際、違いを明示的に示すために、日本語の意味を伝えるなどしたが、だからと言って英語を日本語に直しながら授業を進めることが効果的であると言っている訳ではない。あくまでも既習事項の学習をしている時に、その言語材料の意味を本当に理解できているのかを確認し、その活用方法を明示的に指導することが効果的であるということである。

10月12日（水） ルーレットゲーム（What do you want to ○○?）

7分	・ ALT との Skit を通して、“What do you want to ○○?” の意味を推測 ・ 言語材料の意味・汎用性・語順を児童と確認する
5分	・ ルーレットゲームで繰り返し練習
3分	・ 今日の振り返り

児童の振り返り内容

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
10/12	what do you want を覚えた。 want と like のちがいに気付いた。 ⑥ “want” と “like” の意味が なんとなく似ているから 気をつけよう!

言語形式・意味内容

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
10/12	what do you want を使って 友達のほしい物を聞きたい ⑥ プレゼント とかもできそうだね。

意欲

図 24 10/12 の朝学習の振り返り

活動の振り返り

本時の言語材料である、“What do you want to ○○?” は、既習疑問文ではなく、やり取りにおいて汎用性が高く、やり取りを深めるために効果的であると考えて導入した言語材料である。本研究の終了後の Unit において “What do you want to be?” という同じ構文の言語材料が出てくるので、事前に本 Unit の言語材料の一つとした。しかし、既習疑問文ではないので、この疑問文については、活用を目指してルーレットゲームの言語材料として多く取り扱った。

本時は、既習疑問文 “What do you want?” を想起させることで、“What do you want to ○○?” の指導につなげることで表現の活用が容易になるよう工夫した。しかし、“What do you want?” の意味を確認している時に、“want” と “like” の違いを知らない児童がいたことが分かり（図 24）、その指導をすることになった。言語材料の意味を確認することの大切さを改めて実感した。

10月18(火) ルーレットゲーム (What do you want to ○○?)

3分	・ 言語材料の意味・汎用性・語順を児童と確認する
10分	・ ルーレットゲームで繰り返し練習 ・ ペアで今日の言語材料を活用してやり取り練習 ・ 一人一台端末で単語の並びかえクイズ
2分	・ 今日の振り返り

児童の振り返り内容

日	感想 (できるようになったこと/気付いたこと/次に生かせること/できるようになりたいこと)
10/18	What do you want to ○ ? の言い方が分かった。英話は1つの質問でも色々なことをくっつければ"ちがう。質問になることがわかった。 ⑥ 勉強すればするほど、伝えられる事が増えるところか

汎用性

日	感想 (できるようになったこと/気付いたこと/次に生かせること/できるようになりたいこと)
10/18	ならびかえが楽しかった。 最後をならべは全部変わる事がわかった。 ⑥ 楽しくできてよかったです。意味がどう変わるの分かって良かったです。

汎用性

図 25 10/18 の朝学習の振り返り

活動の振り返り

“What do you want?” の意味・語順を前回確認した上で、“What do you want to ○○?” をルーレットゲームで取り上げた。“to○○” を変えることで、質問でできることが変わるという汎用性について多くの児童が気付いた一方で、それを活用できるというところまで習得した児童は少なかった。今回の継続的な活動（帯活動）では、活用できるところまではいかなかったが、次の Unit で “What do you want to be?” を学習する際に、今回の意味や語順に対する理解が役立つことが期待できる。

10月26日（水） 一枚の写真から

5分	・ 活動の説明（デモンストレーション）
5分	・ ヒント集の配布と使い方の説明
5分	・ 教師主導で「一枚の写真から」を行う （お題となる写真について考えられる質問を児童に考えさせる）

11月1日（火） 一枚の写真から

5分	・ 教師主導で「一枚の写真から」を行う （お題となる写真について考えられる質問を児童に考えさせる）
5分	・ ペアでお題となる写真を決めてやり取りをする
5分	・ 今日の振り返り “What do you want?” の意味・汎用性・語順を児童と確認する



図 26 検証授業における「一枚の写真から」の様子

活動の振り返り

継続的な活動（帯活動）の中で、最も即興性が求められる活動であり、児童が躊躇することが予想されていたが、児童は意欲的にこの活動に取り組むことができた。初めは、写真のように、一枚の写真に対して、クラス全員で時間をかけて、どんな質問ができるか考えていたが、徐々にペア活動に移すことで、児童一人一人が思考して質問をするようになった。しかし、個々の語彙能力や既習疑問文の定着度による差がペアごとに見られた。児童は、既習疑問文の一覧が掲載されているヒント集を見ながら、一生懸命質問をして、やり取りが続くように努力していた。また、ペア活動であるので、ペアの相手が、「こんな質問したらどうか」「お題の写真を違うものに変えよう」など、やり取りが深まるように、協力して活動に取り組むことができていた。

11月9日（水） Hidden Picture Game +Small Talk

7分	“What do you want?” の意味・汎用性・語順を児童と確認する - Hidden Picture Game を行う
5分	- マッピングの仕方を説明する - 話題「好きな食べ物」で small talk を行う
2分	今日の振り返り

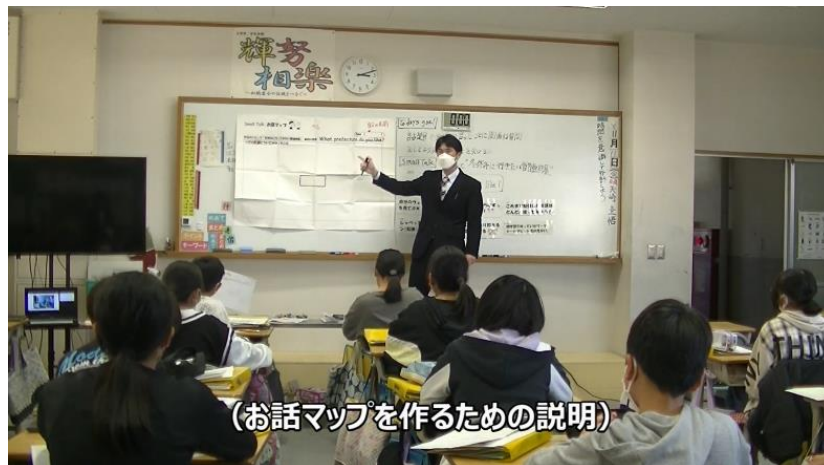


図 27 検証授業における「マッピング」の様子

活動の振り返り

児童自身がお話マップを作ることは、本時が初めてであるが、教師は単元の学習における ALT とのやり取りをお話マップにまとめるなどして、作り方や作成する意図をある程度伝えてきた。本時では、改めてお話マップの作り方や作成する意図を伝えて、実際に Small Talk を行う中で作成した。

本時では、実際に Small Talk をしながら、お話マップを作成したが、児童にとってやり取りをしながら、お話マップを作成することが難しかったようである。検証授業で作成するお話マップは、やり取りをしながらではなく、やり取りが終わった後に、その振り返りとして作成することにした。

（７）検証授業の指導案について

本研究は、話すこと[やり取り]領域における、児童の話すことの質の向上を検証するものであるが、検証授業の単元である、Unit6 “This is my town.” は、話すこと[発表]の単元になっている。よって、本指導案における単元の評価基準は、話すこと[発表]領域の評価基準となっている。そのため、本研究の検証に関わる話すこと[やり取り]の評価基準は、先述の「２ 研究の内容（２）本研究における話すこと[やり取り]の評価について」で示した表１ 本研究の話すこと[やり取り]における評価基準を参照のこと。

１ 単元名

This is my town. —ALT に「おすすめの山梨おでかけプラン」を発表しよう。—

(Here We Go!6 Unit6)

２ 単元について

○教材観

本単元では、“We have～.” や “We don’ t have～.” の表現を用いて、自分たちの住む山梨県にあるものやないものについて発表する単元である。本来は、自分たちの住んでいる市（町）について発表する単元であるが、伝える相手であるALT が山梨市在住のため、山梨市についてすでに知っているため、題材を「山梨県」にすることで、単元のゴールである「おでかけプラン」を児童にとって提案しやすくなるように配慮した。“We can～.” “You can～.” “I like～.” などの既習事項も活用しながら、ALT におすすめのおでかけプランを提案することを目指す。

また、本単元では、ALT におすすめのおでかけプランを提案するために、ALT の趣味や好きな食べ物、家族構成などを英語でのやり取りを通して知り、その情報を相手意識として持たせて、「山梨おでかけプラン」の発表ができるようになることをねらいとしている。ALT の家族構成や関心事を考慮して、どのようなプランを作成すべきか思考を促す活動にしていきたい。

○児童観

研究協力校 6 年 2 組は 30 名の学級である。クラスの人間関係は良好で、授業では活発に意見を発表する姿が見られる。また、外国語科の授業では、ゲームや歌にも楽しく参加することができ、失敗を恐れずに発言する姿もしばしば見ることができる。

研究協力校は教育課程特例校に指定されており、児童は、市の独自カリキュラムで、小学校 1 学年から外国語の活動を始めている。具体的には、市が独自に作っている指導案を活用したり、週に一度朝学習の 15 分間を外国語の活動に充てたりもしている。その成果もあり、児童が持っている語彙は豊富であると感じている。

○指導観

本単元では、「ALT におすすめの山梨おでかけプランを発表しよう。」という目標に向かって、児童は山梨県の魅力を考えながら、ALT の関心事に合わせたプランを考えていく。

2 学期から継続的に取り組んできた話すこと[やり取り]の質を高める帯活動では、「話題や相手の発話に関連した質問をすることで、より相手の事を知ろう」を目標に取り組んできた。この帯活動では、既習の疑問文を一覧にしたパンフレットや、自分が既習の疑問文で活用できるようになったものを書き留めていく振り返りシートを作成し、児童が既習事項を活用してやり取りを深めてい

く活動を行ってきた。

本単元は、話すこと[発表]の言語活動を単元末に設定しているが、友達と行ってみたい都道府県についてやり取りをしたり、また ALT の関心事を知るために、ALT と直接やり取りをしたりする言語活動を仕組み、話すこと[やり取り]の帯活動とつながりを持たせる。その中で、児童がやり取りにおける相手意識を持つことを期待している。

また、ALT が市内在住であり、山梨県のことにくわしいという状況も考慮し、明確な相手意識を持たせて、どのようなプランが最適なのか、思考力・判断力・表現力を働かせる指導を行っていきたい。

3 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標（第6学年）

話すこと[発表]	書くこと
学校生活や地域のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ち等を、簡単な語句や基本的な表現等を用いて話すことができる	自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。

関係する領域別目標：話すこと[発表] ウ 書くこと イ

4 単元の目標

ALT とのやり取りを通して、ALT の関心事を知り、それをふまえて原稿を書くことができる。また、やり取りで知ったことを生かして、ALT に「おすすめの山梨おでかけプラン」を単元の言語材料と既習の言語材料を活用して、発表することができる。

5 単元の言語材料

○表現 We (don' t) have… We can… It' s… You can… What ○○ do you like?
Where do you want to go? What' s your favorite ○○? Can you ○○?
Do you like ○○? Why? What do you want to ○○? What else?

○語句 施設、自然、身の回りのもの、スポーツ、食べ物、動物、都道府県 など

Unit6 で作成した動画教材 「山梨県あるなしフラッシュゲーム」 言語材料 ☐ We have ○○. We don' t have ○○? ねらい ☐ 言語材料の音声面を繰り返し練習するだけでなく、山梨県にあるものとなないものを写真を見ながら考えて発音することで、意味と音声を一致させる練習を行う。 実際の児童の反応 ☐ 楽しかったという感想が多かった。リクエストが多く出されて、レベルアップしたバージョンを何度か作成した。 <実際の教材は、使用している写真等のデータの都合上共有できません>
--

6 単元の評価規準

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
話すこと「発表」	<知識> 施設や建物など山梨県にあるものを表す語句や、We (don' t) have ～. We can ～. の表現を理解している。 <技能> ALT への山梨おでかけプランの発表において、自分の考えや気持ちを話すための技能を身に付けている。	ALT の関心を意識した山梨おでかけプランを発表するために、山梨県にある施設や建物について、本単元の語句や表現を使いながら、自分の考えや気持ちを話している。	ALT の関心を意識した山梨おでかけプランを発表するために、山梨県にある施設や建物について、本単元の語句や表現に加えて既習の語句や表現などを使いながら、自分の考えや気持ちを話そうとしている。
書くこと	<知識> 施設や建物など山梨県にあるものを表す語句や、We (don' t) have ～. We can ～. の表現を理解している。 <技能> ALT への山梨おでかけプランの発表において、自分の考えや気持ちを書く技能を身に付けている。	ALT の関心を意識した山梨おでかけプランを発表するために、山梨県にある施設や建物について、本単元の語句や表現を使いながら、自分の考えや気持ちを書いている。	ALT の関心を意識した山梨おでかけプランを発表するために、山梨県にある施設や建物について、本単元の語句や表現に加えて既習の語句や表現などを使いながら、自分の考えや気持ちを書こうとしている。

7 単元の指導と評価の計画（全8時間）

時間	目標（◆） 主な活動（○） アクティビティ（・）	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	◎評価規準（評価方法） ◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価
1	◆話す相手を考えた発表とは何かを知る ○Greeting 気分・天気・曜日など ○帯活動 ・ <u>Travel Game</u> 1 “Where do you want to go?” の意味・語順の確認 2 ペアで行う ○Today' s goal ALT の「ニュージーランドのおすすめおでかけプラン」の発表を聞いて話す相手を考えた発表について	発	発		○場所に関係する語句を理解している（観察／振り返りシート） ○相手意識をもった発表の特徴を考えている（観察/振り返りシート）

	考えよう ○Small Talk （A L TがH R Tの関心を探る） ○Skit A H R Tの関心を見つけたスピーチ B H R Tの関心を見つけたスピーチ 言語材料(新出) We (don' t) have _____. We can _____. 言語材料 (既習) You can_____. It' s_____. ※児童には、単元最後に ALT に山梨県のおでかけプランを提案することを伝える。 ・ A/Bそれぞれのスピーチを聞いて、相手を意識したスピーチがどのようなものか考えを出す。 ○Game ・ <u>Hidden Picture Game</u> 言語材料 (単元に関わる名詞) ○Let' s watch. ○振り返り			
2	◆発表に使える語句（場所）を使えるようになる。 ○Greeting 気分・天気・曜日など ○帯活動 ・ <u>一枚の写真から</u> 1 全体で行う （質問してみたい児童を募る） 2 ペアで行う ○Today' s goal ゲームやチャンツを通して発表に使える語句を考えて使えるようになる。 ○Game ・ <u>Gap Chant (場所に関わる名詞)</u> ○Chant “ We don' t have an aquarium.” ○Game2 ・ <u>山梨県あるなしフラッシュゲーム Lv1</u> 1 デモンストラーション H R Tが映し出された写真を見て have/ don' t have を使い分けるお手本を見せる 2 代表が挑戦する	発		○発表に使える語句（場所）を理解し、活用している。(観察／振り返りシート)

	3 全員で挑戦する ○Let' listen ○振り返り				
3	◆スピーチに使える表現 “We have～.” などを使えるようになる。 ○Greeting 気分・天気・曜日など ○帯活動 ・<u>Small Talk (好きな食べ物／嫌いな食べ物)</u> 1 お話マッピングの作り方の確認 2 教師⇔ALT ⇒児童 (児童はALTについてお話マッピングをする) 3 児童⇔児童 ○Today' s goal やり取りやゲームを通してスピーチに必要な表現を使えるようになろう ○Chant “We don' t have an aquarium.” ○Game ・<u>山梨県あるなしフラッシュゲーム Lv 2</u> 1 代表が挑戦する 2 全員で挑戦する ○Let' listen (ALT の発表原稿を確認して、“We can enjoy～” に注目させる) ○Chant “ We can enjoy fishing.” ○振り返り	発			○ “We (don' t) have～ / We can～.” などの表現を理解し、ゲームの中で活用できている。(観察／振り返りシート)
④ 検証授業	◆話題や友達の言ったことに関係する質問をしてより相手のことを知る ○Greeting 気分・天気・曜日など ○帯活動 <u>一枚の写真から</u> 1 全体で行う (質問してみたい児童を募る) 2 ペアで行う ○Today' s goal 英語でやり取りをして相手の事をより深く知ろう	や	や		○既習の疑問文を活用して、話題に沿った質問ができる。(ワークシート／動画) ○相手のことをよりよく知るために、既習の疑問文を活用して質問をすることができる。(ワークシート／動画)

	<u>Small Talk (冬休みに行ってみたい都道府県)</u> 児童⇄児童 ○振り返り ビデオで記録した自分たちのやり取りを見ながらお話しマップを作成する。やり取りについての感想を書く。 ※次回の「ALTの関心を探るための質問を考える」という目標を伝え、本時との関連を図る。				
5	◆山梨おでかけプランを作るために ALT の関心を探る。 ○Greeting 気分・天気・曜日など ○帯活動 <u>Hidden Picture Game</u> 1 “What do you want?” の意味。語順の確認 既習の疑問文を活用する ○Today’ s goal 山梨おでかけプランを作るために ALT の関心を探ろう ○ Activity ・ <u>Small Talk</u> 1 どんな話題で ALT と話をすればよいか意見を出す。 2 既習事項を使ってその話題について質問をしてワークシートにまとめていく（以後1、2を繰り返す） 3 山梨おでかけプランを発表するために、「自分が山梨県で週末行きたい場所」を決める。※このやり取りは第5時に行う。 ○振り返り		や	や	○ALT の関心を探るために、既習の疑問文を活用して質問をすることができる。(ワークシート／観察) ○ALT の関心を探るために、既習の疑問文を活用して質問をしようとしている。(ワークシート／観察／振り返りシート)
6	◆山梨おでかけプランの原稿を完成させる ○Greeting 気分・天気・曜日など ○帯活動 ・ <u>Small Talk (山梨県で週末に行きたい場所)</u> 1 教師⇄ALT ⇒児童 2 児童⇄児童 3 「山梨県で週末行きたい場所」を共有する ○Today’ s goal Small talk で気付いたことも生かしながら山梨おで	書	書		◎ALT の関心事を踏まえて、単元の言語材料と既習の言語材料を活用して山梨おでかけプランの原稿を考えることができる/書いている。(発表原稿) ◎単元の言語材料と既習の言語材料を活用して、山梨おでかけプランを作るために、誤りがないよ

	かけプランを考えよう ○Writing ・ALT のための山梨おでかけプランの原稿を作る ○振り返り				うに書き写すことができる（発表原稿）
7	◆ALT へ山梨おでかけプランを発表できるようにする ○Greeting 気分・天気・曜日など ○帯活動 <u>Travel Game</u> 1 “Where do you want to go?” の意味・語順の確認 2 ペアで行う ○Today’ s goal 自分の山梨おでかけプラン原稿を発表できるようにしよう ○Chant “We don’ t have an aquarium.” ○Chant “ We can enjoy fishing.” ○Activity ・児童それぞれが自分の発表原稿の練習をする ○振り返り	発			○単元の言語材料を誤りがないように発音したり、表現したりすることができる。（観察）
8	◆ALT に山梨おでかけプランを発表する ○Greeting 気分・天気・曜日など ○帯活動 ・<u>一枚の写真から</u> 1 全体で行う（質問してみたい児童を募る） 2 ペアで行う ○Today’ s goal 自分のおススメの山梨おでかけプランを発表しよう ○Speech 前半の児童が発表する ○振り返り		発		○ALT の関心事を踏まえて、単元の言語材料と既習の言語材料を活用して山梨おでかけプランを発表することができている。（観察／発表原稿）
9	◆ALT に山梨おでかけプランを発表する ○Greeting 気分・天気・曜日など ○帯活動 ・<u>一枚の写真から</u> 1 全体で行う（質問してみたい児童を募る） 2 ペアで行う		発		○ALT の関心事を踏まえて、単元の言語材料と既習の言語材料を活用して山梨おでかけプランを発表することができている。（観察／発表原稿）

	○Today' s goal 自分のオススメの山梨おでかけプランを発表しよう ○Speech 後半の児童が発表する ○振り返り				
10	◆パフォーマンステスト ○Greeting 気分・天気・曜日など ○帯活動 <u>Small talk (休みの日は何をしています?)</u> ○パフォーマンステスト 一人一台端末に自分の発表を録画する。 ○振り返り	発	発		◎ALT の関心事を踏まえて、単元の言語材料と既習の言語材料を活用して山梨おでかけプランを発表することができている。 (発表動画) ◎単元の言語材料を誤りがないように発音したり、表現したりすることができる。(発表動画)

[単元のパフォーマンス課題] 単元目標、単元の評価規準を実現するための姿

ALT の関心事を考慮したおすすめの「山梨おでかけプラン」を発表しよう。

[評価基準 (ループリック)] 書くこと

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
a	施設や建物など山梨県にあるものを表す語句や、We (don' t) have ～. We can ～. などの表現を正しく書き写している。	ALT の関心を意識した山梨おでかけプランを発表するために、山梨県にある施設や建物について、本単元の語句や表現に加えて既習の語句や表現などを使いながら、自分の考えや気持ちを書いている。	ALT の関心を意識した山梨おでかけプランを発表するために、山梨県にある施設や建物について、本単元の語句や表現に加えて既習の語句や表現などを使いながら、自分の考えや気持ちを書こうとしている。
b	施設や建物など山梨県にあるものを表す語句や、We (don' t) have ～. We can ～. などの表現を相手に伝えるように書き写している。	ALT の関心を意識した山梨おでかけプランを発表するために、山梨県にある施設や建物について、本単元の語句や表現を使って自分の考えや気持ちを書いている。	ALT の関心を意識した山梨おでかけプランを発表するために、山梨県にある施設や建物について、本単元の語句や表現を使って自分の考えや気持ちを書こうとしている。
c	「b」を満たしていない ※単語の間が空いておらず、単語としての認識ができない場合は C に該当する。	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

[評価基準（ルーブリック）] 話すこと[発表]

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
a	山梨おでかけプランを発表するための語句や表現（Unit6）を相手に伝わるように誤りのない表現を使って話をしている。	A L Tの関心事を考慮して、山梨おでかけプランを発表する時に、Unit6 の語句や表現に加えてこれまでに習った表現（“You can～.” や既習の疑問文など）を使って、発表をしている。	A L Tの関心事を考慮して、山梨おでかけプランを発表する時に、Unit6 の語句や表現に加えてこれまでに習った語句や表現を使って、発表をしようとしている。
b	山梨おでかけプランを発表するための語句や表現（Unit6）を相手に伝わるように使って話をしている。	A L Tの関心事を考慮して、山梨おでかけプランを発表する時に、Unit6 の語句や表現を使って発表テーションをしている。	A L Tの関心事を考慮して、山梨おでかけプランを発表する時に、Unit6 の語句や表現を使って発表をしようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

[想定される原稿及びパフォーマンス] 思考力・判断力・表現力

(a) S : This is my plan. In Yamanashi, we have Seisenryo. It's very beautiful. We can enjoy hiking. <u>You can see Mt.Fuji.</u> We can enjoy eating good ice cream. <u>Do you like sweets?</u> Please visit Seisenryo.

(b) S : This is my plan. In Yamanashi, we have Seisenryo. It's very beautiful. We can enjoy hiking. We can enjoy eating good ice cream. Please visit Seisenryo.
--

8 本時の学習（検証授業）

（１）日時 令和４年１１月１１日（金）

（２）場所 県内公立小学校（研究協力校） ６年教室

（３）目標

○話題や友達の言ったことに関係する質問をしてより相手のことを知る。

（４）展開例（４／８時間）

時間	児童の活動	指導者の活動	指導上の留意点 ◎評価規準（評価方法）
2分	○Greeting ・挨拶をする ・今日の気分とその理由を答える。	・全体に挨拶をし、How are you?と数名の児童に尋ねてその理由も尋ねる。	
10分	ウォーミングアップ <u>一枚の写真から</u> ・一枚の写真からどんな質問ができそうか、既習の疑問文の中から選んで質問をする。 ・全体で行った後にペアで行う。	・J T Eとデモンストレーションを見せて、活動のイメージをもたせる。 ・ペア活動になった際には、やり取りが止まっているペアに助言をする。	デジタル教材 「一枚の写真から」 ◎話題に応じた疑問文を活用している。 (観察)
5分	○Today's Goal 「話題や友達の言ったことに関係する質問をしてより友達のことを知ろう」	・帯活動で学習してきたことを振り返られるようにどんな疑問文がでてきた児童に尋ね、出されたものを板書する。 ・確認後、板書したものは消す。	
20分	<u>帯活動（検証の場面）</u> ○Small Talk 「冬休みに行ってみたい都道府県」 検証する活動	・動画の撮影方法を確認する。 ・話の始めとなる “What prefecture do you like?”を確認する。 ・撮影環境確保のため、クラスを２グループに分けて、１グループをイングリッシュルーム	◎相手のことをよりよく知るために、既習の疑問文を活用している。(観察/やり取り動画)

	・ペアで話題についてやり取りを行う。<u>(やり取り終了後にどのようにやり取りを進めたのか、お話マップをつくる。)</u>	に連れていく。 (T1 は両グループに滞在する時間を均等する) ・お話マッピングの作成方法を説明する。	お話マップのワークシート
8分	○振り返り ・やり取りを通してどんなことが分かったのか発表する。 ・自分たちで撮影したやり取り動画を見ながらお話マップを作成する。 ※友達について分かったことでも、やり取りの仕方についてでも、どちらでも良い。	・児童が友達のことで新しく知ったことを発表した時には、より話を深められるように英語でその友達の児童に質問をするように心がける。 ・次回、A L Tの関心を探るために質問をするという目標を伝える。	振り返りシート

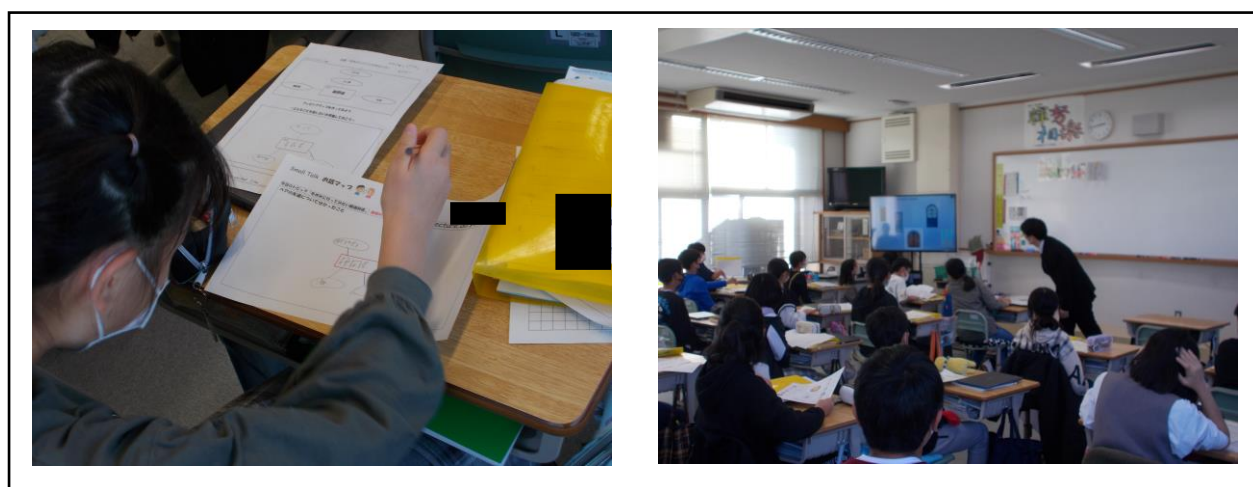


図 28 検証授業の児童の様子

VI 研究の結果と考察

やり取りの質を向上させる継続的な活動（帯活動）の効果検証

1 評価基準に基づいたやり取りの質の変化

検証授業内で行った児童のやり取りの質がどのように変化したかについては、本研究における思考・判断・表現の評価基準である、“Why?” 以外の疑問文の活用数という観点と児童がやり取りをした際に作成したマッピングの記載の変化という2点から、効果検証を行った。以下、特に特徴的であった3組のペアを具体例として用いながら、効果検証について説明する。

① 事前実態調査において思考・判断・表現の評価が“c”同士のペア(児童Aと児童B)のやり取り

事前実態調査において思考・判断・表現の評価が“c”同士であったペアの実際のやり取りの一例を下に示す(図29)。このペアの児童は、“Why?” のみを繰り返し用いてやり取りを行っていたことが分かる。この理由としては、“Why?” という表現が児童にとって、発音しやすく、意味も分かりやすいため、やり取りの中で多用していることと、既習の疑問文が活用できる知識になっていないため、やり取りの中で即興的に用いることができないためだと考えられる。

また、図30のマッピングから、疑問文に“Why?” しか使用していないため、やり取りが深まらず、話題も広がらないことが見て取れる。

A ■■■ B ■■■

A What prefecture do you like?

B I like Shizuoka.

A **Why?**

B I like fishing.

A **Why?**

B I like fish.

A **Why?**

B Fish is maguro.

A Nice. **Maguro is eat?**

B I like Sushi.

A Nice. Thank you.

B Thank you. What prefecture do you like?

A I like Hokkaido.

B **Why?**

A What do you want to go to ... sea.

B **Why?**

A I like fish.

B Me too. Thank you.

A Thank you.

A

知技	思・判・表	主体
C	C	C

B

知技	思・判・表	主体
C	C	C

※ “Maguro is eat?” は既習構文から大きく外れているので疑問文の数に計上しない。

活用した疑問文

A:Why?×3

B:Why?×2

図29 事前実態調査における児童Aと児童Bのやり取りの内容

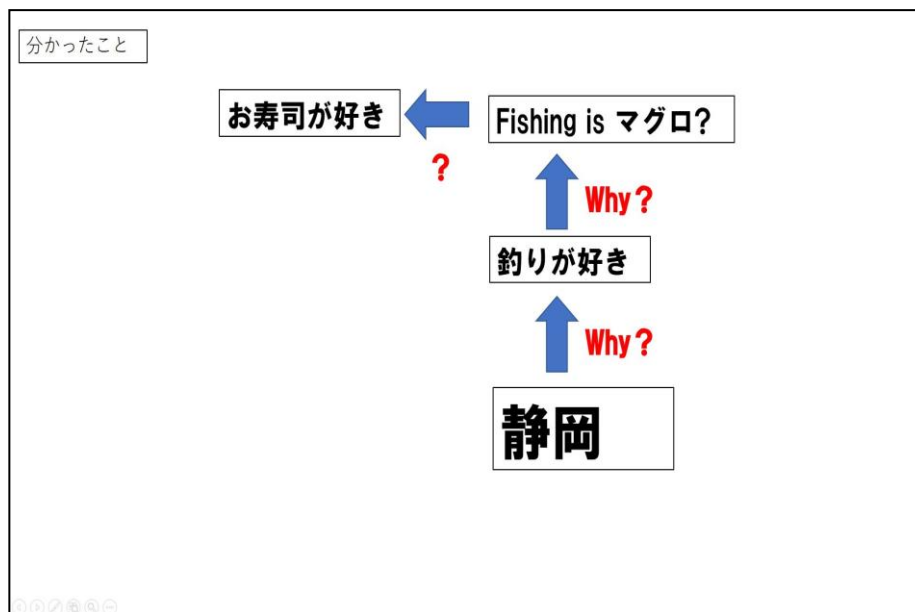


図 30 事前実態調査における児童 A のやり取りのお話マップ

先述の①事前実態調査において思考・判断・表現の評価が“c” 同士のペアが、検証授業時に行ったやり取りの様子を次に示す（図 31）。

B What prefecture do you like?

A My prefecture is Nigata. **Do you like sea?**

Do you like aquarium?

B Yes, I do. **What fish do you like?**

A I like fish.

B 何の魚だよ。

A I like 鯛. **Do you like 鯛?**

B Yes, I do.

A **Do you like snow?**

B Yes, I do.

A **Can you play ski?**

B No, I don't.

A **Do you like rice?**

B Yes, I do.

A What prefecture do you like?

B I prefecture like Tokyo. **What Tokyo tower do you like?**

A Yes, I do.

A

知技	思・判・表	主体
b	a	a

B

知技	思・判・表	主体
b	b	b

※ “What Tokyo tower do you like?” は、やり取りが成立しているとはいえないので疑問文の数として計上しない。

活用した疑問文
A: Do you like ~?
Can you ~?
B: What O do you like?

図 31 検証授業における児童 A と児童 B のやり取りの内容

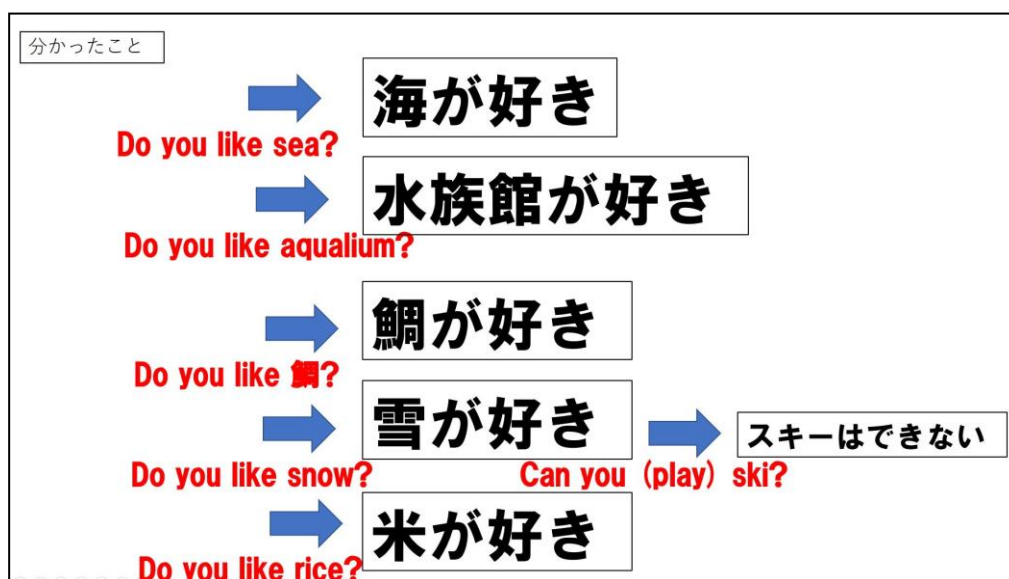


図 32 検証授業における児童 A のやり取りのお話マップ

事前実態調査のやり取りと比較すると、“Why?” 以外の疑問文の活用数が増加していることが分かる。児童 A は、話題や自分の発話に関連する質問を “Do you like ○○?” “Can you ○○?” という二つの異なる疑問文を活用して、やり取りができるようになったことが分かる。また、児童 B は、“What ○ do you like?” の○の部分に、話題や相手の発話に合わせた名詞を入れて、適切な質問ができるようになっている。

児童 B が、“What fish do you like?” と質問したことに対して、児童 A が “I like fish.” と間違えた返答をした際にも、日本語ではあるが、「何の魚だよ」と指摘していることから、やり取りの内容や、自分の用いた疑問文の意味を正確に理解していることが分かる。

また、図 30 と図 32 の二つのマッピングを比較すると、事前実態調査時よりも検証授業のやり取りの方が、疑問文については “Why?” の使用が無くなり、代わりに “Do you like～?” を主に用いて、やり取りをする姿勢がうかがえる。

② 事前実態調査において思考・判断・表現の評価が “b” と “c” のペア（児童 C と児童 D）のやり取り（図 33）

児童 C は、やり取りの中で “What do you like fruits?” と語順を間違えた後に、自分で気づき、“What fruits do you like?” と正しい語順に直すことができるなど、英語の正確さについても意識できる児童であることが分かる。また、話題の流れから、児童 C が「山梨の好きなフルーツ」を児童 D に尋ねた際に、児童 D が “I like apples.” と答えたが、日本語で「いや、あんまないだろ」とつぶやき、相手の応答に違和感を覚えている様子が見えた。つまり、児童 C は、相手の発言の内容を理解して、やり取りすることができていると言える。このペアのやり取りは、他のペアよりも、やり取りが短時間で終わってしまったこともあり、児童 D が用いた疑問文は “Why?” のみとなってしまった。

このペアのマッピング（図 34）を見ると、やり取り自体は短いですが、児童 C の視点からは “Why?” 以外の疑問文を一つ活用することによって、話題や相手の発話を受けて質問をしていることが分かる。児童 C は児童 D が行ってみたい都道府県を「山梨」と答えたことから、フルーツの話題に絞ってやり取りを行おうとしたと考えられる。

C What prefecture do you like.
D I want to go to Yamanashi.

C **Why?**
D I like fruits.

C **What do you like fruits? What fruits do you like?**
D I like apples.
C (いや・・・あんまないだろ)

D What prefecture do you like?
C I like Nagasaki.

D **Why?**
C I like Kasutera.
D Oh, I see.

C

知技	思判表	主体
a	b	b

D

知技	思判表	主体
c	c	c

活用した疑問文

C:Why?
What ○ do you like?
D:Why?

図 33 事前実態調査における児童 C と児童 D のやり取りの内容

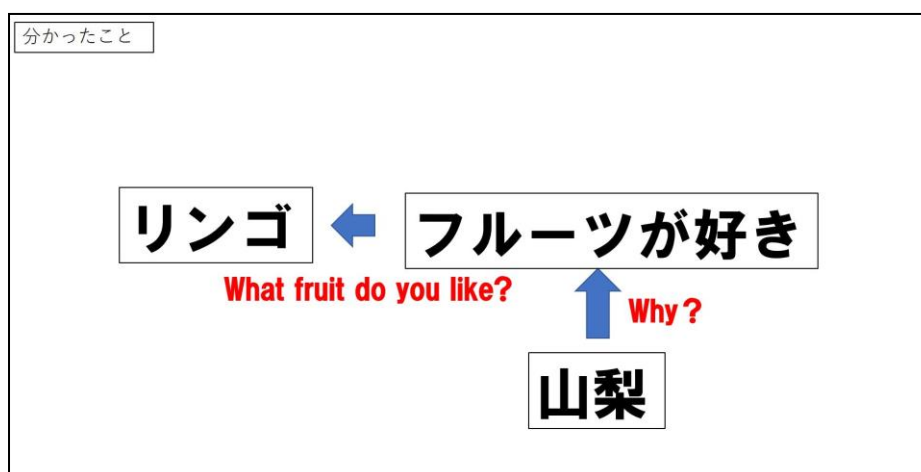


図 34 事前実態調査における児童 C のやり取りのお話マップ

②のペアが、検証授業時に行ったやり取りの様子を次に示す（図 35）。

事前実態調査のやり取りと比較してみると、児童 C の活用する疑問文の使用数が 3 から 11 と飛躍的に増加したことが分かる。また、マッピングを見て分かるように、常に話題や相手の発話に関連した質問をすることができている。児童 D は、児童 C と比較すると疑問文の数が大きく増加しているわけではないが、児童 C の質問 “Do you like mountain?” に対して “Yes, I do. I like 富士山.” のように適切に答えられている所にも注目したい。これは、お互いに相手の発話の意味を理解して質問をしたり、答えたりできていることの表れであると考えられる。また、やり取りの時間に関しては、事前実態調査では 49 秒であったが、検証授業では制限時間の 3 分の間中やり取りをすることができた。

CD Hello.

C What prefecture do you like?

D I like Yamanashi.

C **Why?**

D Very beautiful.

C **Do you like fruits?**

D Yes, I do.

C **What fruits do you like?**

D I like apple.

C (関係ないじゃん) **Do you like シャインマスカット?**

D Yes, I do.

C Oh, me too.

D What prefecture do you like?

C I like Tokyo.

D **Why?**

C I like Yomiuri Land and 水族館.

D **Do you like fruits?**

C Yes, I like strawberry. **Do you like mountain?**

D Yes, I do. I like 富士山.

C **Do you like FujiQ?**

C

知技	思判表	主体
b	a	a

D

知技	思判表	主体
a	b	b

D Yes, I do.

C **What prefecture...attraction?**

D I roller coaster.

D **Do you like ドドンパ?**

C Yes, I do.

D I don't like ドドンパ.

C **Do you like Ice cream?**

D Yes, I do. I like vanilla icecream

D **Do you like attraction?**

C Yes, I do. I like coffee cup. **Do you like coffee cup?**

D No, I don't.

C **Why?**

D 酔う・・・。

C **Do you like SkyTree ?**

D Yes, I do. Very very beautiful.

活用した疑問文

C: Why?

Do you like O?

What O do you like?

D: Why?

Do you like O?

図 35 検証授業における児童 C と児童 D のやり取りの内容

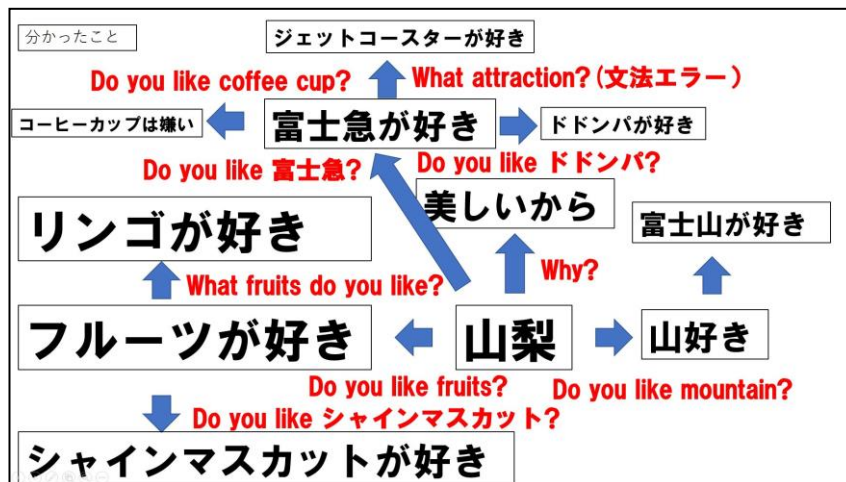


図 36 検証授業における児童 C のやり取りのお話マップ

③事前実態調査・検証授業の両方の思考・判断・表現の評価が“a” 同士のペア（児童 E と児童 F）のやり取り（図 37 会話）

事前実態調査の時には、児童 F の「北海道」という発話に対して、児童 E が「なぜ？」と理由を聞いたり、「北海道のどこに行きたいか」と質問を追加したりしている。また、児童 E は、やり取りの中で沈黙が生じたため、「広島が好き」という自分の発話したことに関連し、相手に “Do you like Hiroshima?” や “Do you like もみじ饅頭?” のように質問し、コミュニケーションが成立するように努めていた。

F: What prefecture do you like? E: I like Hiroshima. F: Why? E: I like もみじ饅頭. F: OH! Nice. E: What prefecture do you like? F: I like Hokkaido E: OH! Nice! Why? F: You can eat 札幌ラーメン. E: OH! Nice! F: How about you? E: You can eat もみじ饅頭. (沈黙) E: Do you like もみじ饅頭? F: No eat. (沈黙) F: Do you like 札幌ラーメン? E: Yes, I do. F: Nice! Do you like Hokkaido? E: Yes, I do. Do you like Hiroshima? F: Yes, I do. I like Hiroshima. E: Do you know 厳島神社? F: Yes! (沈黙) E: Where do you want to go in Hokkaido? F: Yes. I want to go to beach. E: OH! Nice! F: Where do you want to go in Hokkaido? E: I want to go to 原爆ドーム. E: Nice.	E <table border="1"> <tr> <th>知技</th> <th>思・判・表</th> <th>主体</th> </tr> <tr> <td>a</td> <td>a</td> <td>a</td> </tr> </table> F <table border="1"> <tr> <th>知技</th> <th>思・判・表</th> <th>主体</th> </tr> <tr> <td>a</td> <td>a</td> <td>a</td> </tr> </table> 活用した疑問文 E: Why? Do you like O? Where do you want to go? Do you know O? F: How about you? Do you like O? Where do you want to go?	知技	思・判・表	主体	a	a	a	知技	思・判・表	主体	a	a	a
知技	思・判・表	主体											
a	a	a											
知技	思・判・表	主体											
a	a	a											

図 37 検証授業における児童 E と児童 F のやり取りの内容

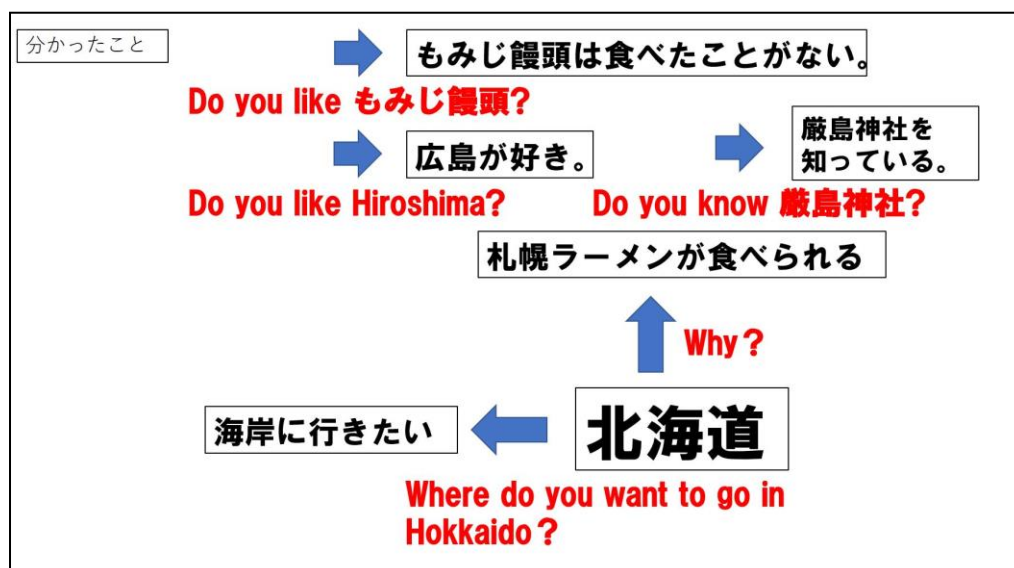


図 38 事前実態調査における児童 E のやり取りの内容

(検証授業のマッピング)

検証授業のマッピング（図 40）を見てみると、児童 E は、児童 F が訪問したい都道府県を事前実態調査から変えて、「沖縄」と答えたが、それに動じることなく、適切に関連した質問、具体的には「海で泳げる？」や「水族館が好き？」などと質問することができている。しかし、事前実態調査の時から適切なやり取りが行われていたので、検証授業においては、疑問文の活用数や種類においては、あまり大きな変化は見られなかったと言える。

E What prefecture do you like?	E	知技	思・判・表	主体
F I like Okinawa. How about you?	a	a	a	
E I like Hiroshima.				
F (沈黙)ボタンを譲って				
E Why?				
F Hot. And beautiful.				
E Nice. Do you like Hiroshima?				
F Yes, I do.				
E Me too. Do you like Momijimanju?				
F Yes, I do. It's nice. Do you like sea?				
E Yes, I do. Can you swim in the sea?				
F Yes, I can.				
E Nice. Do you like aquarium?				
F Yes, I do. It's nice.				
E What fish do you like?				
F I like ジンベイザメ. How about you?				
E I like クリオネ.				

F	知技	思・判・表	主体
	a	a	a

活用した疑問文
E: Why? Do you like ○? What ○ do you like? Can you ○○? F: How about you? Do you like ○?

図 39 検証授業における児童 E と児童 F のやり取りの内容

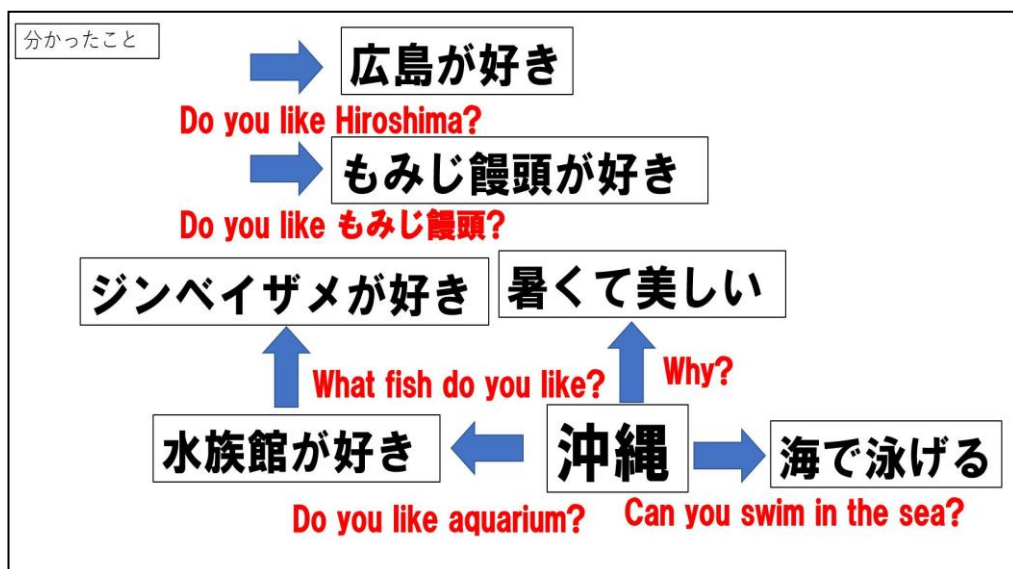
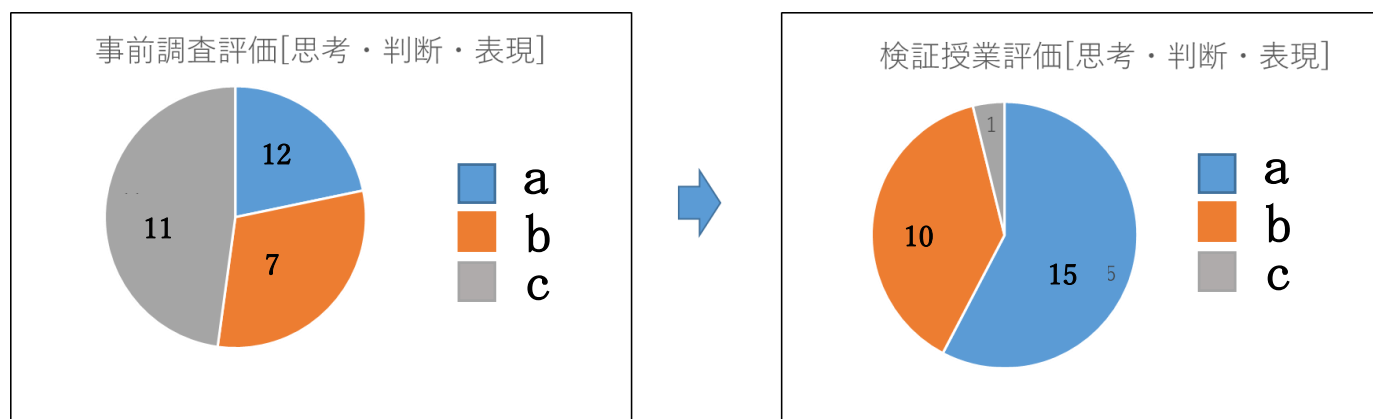


図 40 検証授業における児童 E のやり取りのお話マップ

ここまで、評価基準に基づいて、レベル別のそれぞれのペアの具体的なやり取りから変容を見てきたが、クラス全体の評価の変化からも指導の効果がうかがえる。図 41 のグラフを見ると、評価基準で “c” 評価となる児童 (“Why?” のみでやり取りを続けようとする児童) は検証授業でのやり取りでは、1 名のみとなった。また、事前実態調査のやり取りでは “c” 評価であったが、検証授業時には、二つ以上の疑問文を活用するようになった児童もいた。これは、継続的な活動（帯活動）によって、児童がより多くの既習疑問文をやり取りの中で活用することを促し、やり取りの質を向上させるための一助になったのではないかとと言える。



プラスの変化が見られた児童の内訳
b→a (6) c→b (5) c→a (3)

図 41 やり取りの評価が向上した児童の割合の変化

2 既習疑問文の活用回数・種類の変容について（図 42）

児童が活用した疑問文の総数と種類に着目してみると、疑問文の使用総数が 31 回、種類が 2 種類増加していることが分かる。また、事前実態調査においては、“Why?” の活用回数が 26 回と突出していたが、検証授業では、“Do you like○○?” の活用が 24 回増加し、次いで “What ○○ do you like?” の活用が 6 回増加していた。これは、継続的な活動（帯活動）を通じて、児童が “Why?” 以外の既習疑問文を理解し、話題や相手の発話に応じて活用できるようになったためであると考えられる。

“Do you like○○?” や “What ○○ do you like?” と比較すると、大きな増加ではないが、“Can you ○○?” “Where do you want to go?” “What do you want?” “How about you?” といった疑問文を活用する児童も増加していることが分かる。今回の検証授業において児童が活用したこれらの既習疑問文は、帯活動において様々な場面で繰り返し活用する練習を行ったものであり、帯活動を通じた継続的な指導が効果的であったと考えられる。

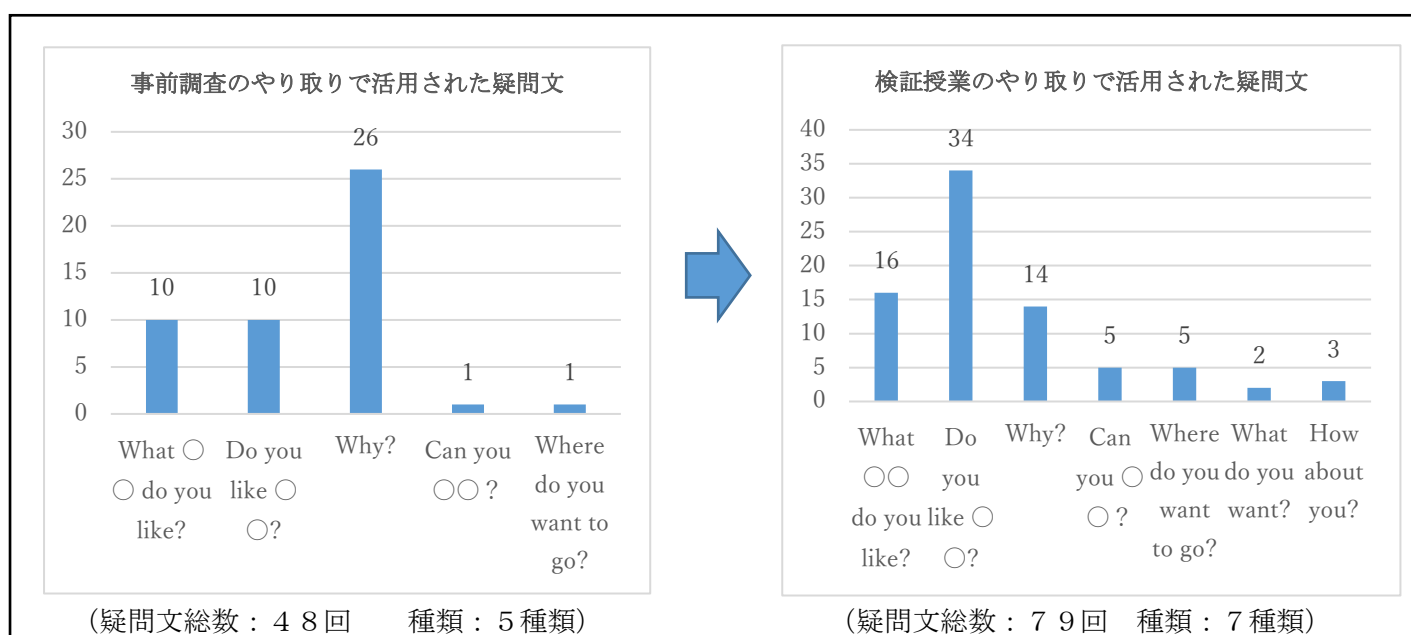


図 42 やり取りにおいて活用される疑問文の変化

3 児童の振り返りシートから考察した継続的な活動（帯活動）の効果について

毎回の帯活動の後には、児童にその活動を通じて、できるようになったことや気づいたことなどを自由に記述させた（図 43～45）。その中に、英文中のある語を別の語に変えることで、一つの疑問文の形で様々なことが尋ねられることが分かったというような振り返りを書いている児童が多く見受けられた（図 43）。これは、本研究の中で継続的な活動（帯活動）の中で、指導者が言語形式と意味内容にも児童の注意が向くように授業を行った結果であると考えられる。他にも、look/watch/see など「見る」という意味を持つ英語のニュアンスの違いについて関心を持ったり、英語の品詞の使い分けについて質問をしたりするなど、言語形式に関する学習に対して高い学習意欲をもつようになった児童がいることも分かった（図 44）。さらに中には、Open Question と Closed Question をどう組み合わせでやり取りを進めれば、やり取りが深まっていくかを考えている児童もいた（図 45）。これはコミュニケーションストラテジーとして大切なポイントであり、やり取りを深めるために行った授業が児童にこのような重要な気づきをもたらしたと考えられる。

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
10/18	what do you want 何で何をつけることで質問する人たくさん増えることに気づいた ② その通りです。「したいこと」って何、こう便利ですね。

汎用性

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
9/29	「Can you play —」の「play」以外も他の言葉はあるか知りたい、という質問です。「play」の他にもたくさん入りますよ。「eat」「drink」「walk」動かし表すことばで遊ぶのは大好きです。

汎用性

図 43 汎用性に気づいた児童の振り返りシート

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
10/18	見るでも意味が「ちかちか」に気づけてよかったです。 ② 日本語でも「見る」「観る」など

言語形式

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
9/13	「favorite」はお気に入りや好きという意味で「like」とのちがいが知りたい。「What's your like ～」では通じないのを知りたい。 好き具合 like < favorite (好き) (大好き) 使い方 I like ロードオカザリング。人 like 物。 My favorite movie is ロードオカザリング。

言語形式

図 44 言語形式について関心をもった児童の振り返りシート

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
10/12	what do you want をつかうで、もって話か広がる気がしました。この言葉に、Do you want ～？を使うと、1つの話題でも、すごくいろんな話しかてきると思いました。 ② ええね。みんなの

ストラテジー

図 45 コミュニケーションにおける疑問文の使い方に関する児童の振り返りシート

3 事前・事後意識調査の結果を基に考察した継続的な活動（帯活動）の効果について

7月と11月に行った事前・事後意識調査の結果から児童の意識の変容を見取り、指導の効果について検証してみたい。調査では「やり取りが好きかどうか」を訪ねたが、事前、事後の2回の調査結果を比較すると、事前では「嫌い」と回答していた2人の児童が、事後では0人になっていることが分かる。また、「どちらかと言えば嫌い」と回答していた5人の児童の人数も3人に減少し、「どちらかと言えば好き」と回答する人数が3人増加していることが分かる(図46)。これは、ゲーム要素を取り入れた継続的な活動（帯活動）を通じて、英語でやり取りをする基礎を十分に培った上でやり取りを行ったため、児童は自信をもって英語で話せることができ、やり取り自体を楽しめる児童が増えたためだと考えられる。

一方、「やり取りで困ること」についても尋ねたが、図47のように「特になし」と回答した児童の数が3人増加し、「相手の発言が理解できない」と回答した児童数が11から6に減少したことから、やり取りに困っている児童は減少したことが分かった。これについても、継続的な活動を通して、既習の言語材料を繰り返し練習したことにより、やり取りを行う上で既習疑問文をどのように活用すればよいのかが理解できたからだと考えられる。

最後に、「やり取りで意識していること」の変化を比較してみると、事前調査ではやり取りの中で「質問の内容」について意識している児童が11人と少ないが、事後調査では、2倍以上の24人の児童が意識できるようになったことが分かる(図48)。これも、継続的な活動（帯活動）によって相手の発話に応じてどのように疑問文を活用する練習を行ってきた成果であると言える。

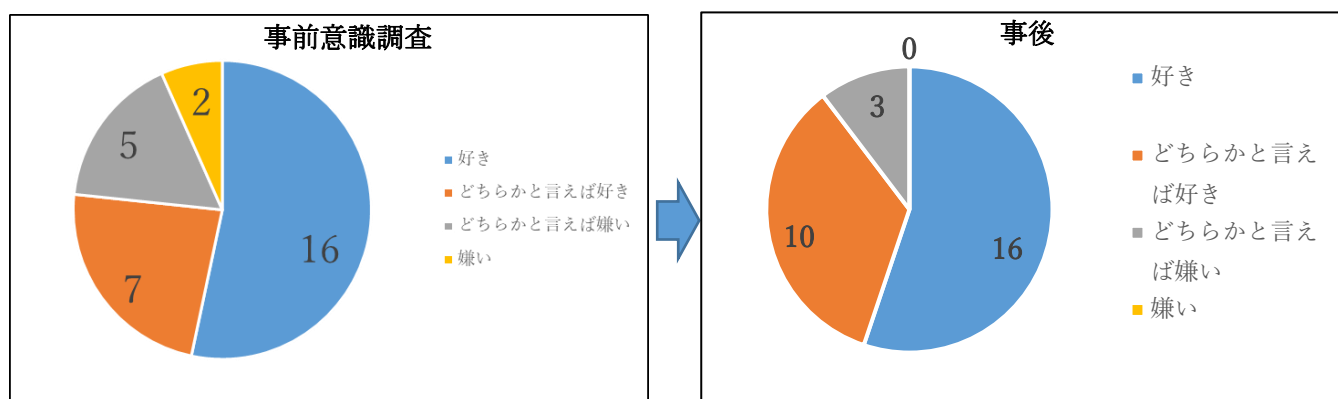


図46 児童のやり取りに対する意識の変化（好きかどうか）

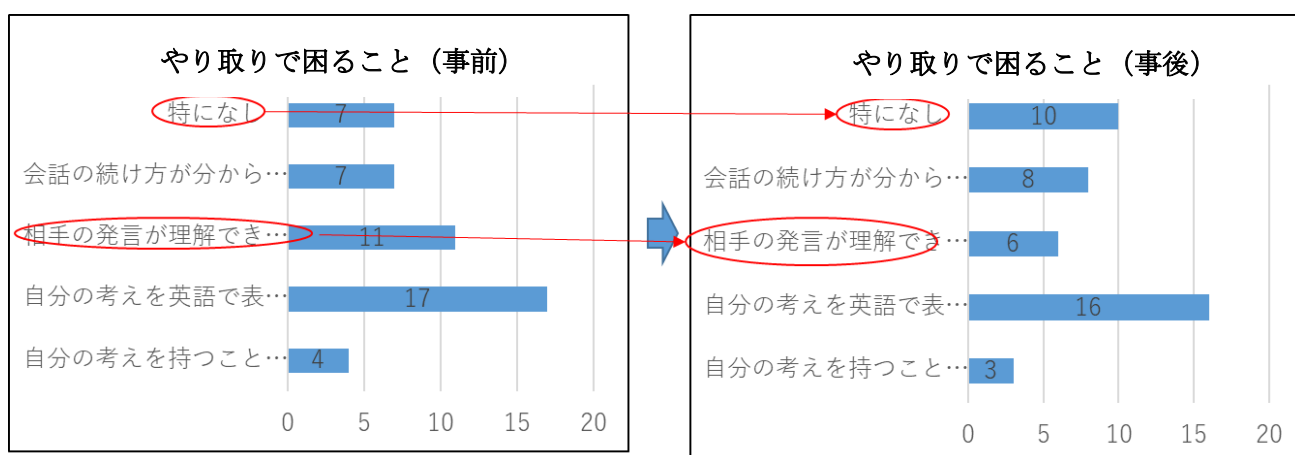


図47 児童のやり取りに対する意識の変化（困ること）

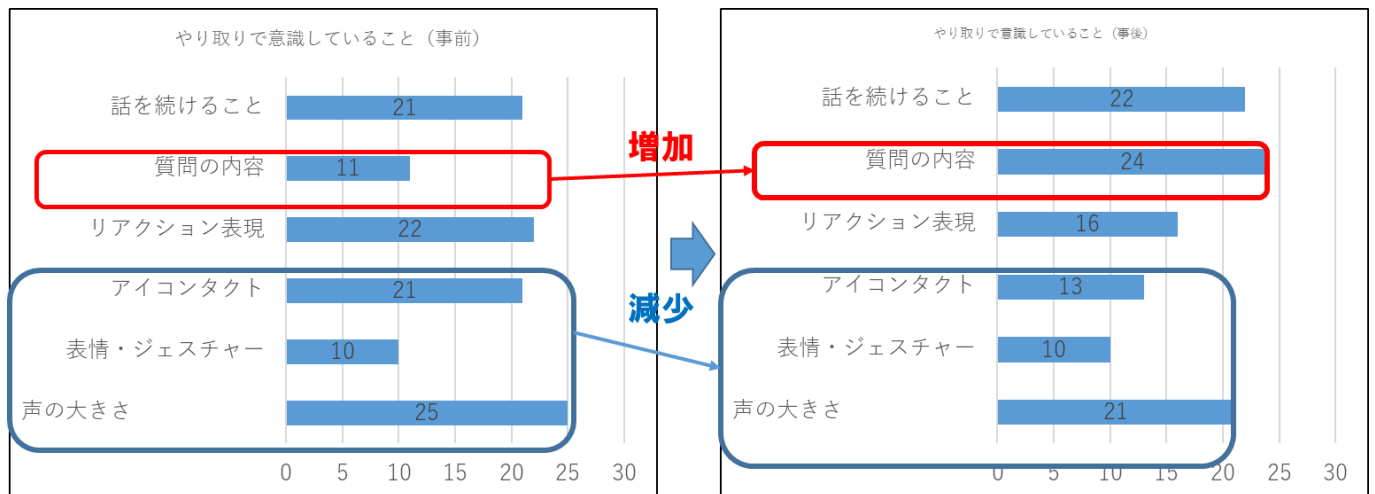


図 48 児童のやり取りに対する意識の変化（コミュニケーションの方法）

Ⅶ 研究のまとめ

1 研究の成果

（ア）疑問文を活用する力を伸ばす継続的な活動（帯活動）の有効性について

検証授業において「冬休みに行ってみたい都道府県」について、児童が3分間やり取りをした記録を分析した結果、活用した疑問文の総数・種類が大幅に増加したという結果がでた。また、やり取りの内容面においても、児童が一問一答のやり取りだけでなく、話題や相手の発話に合わせた質問をすることができ、思考・判断・表現の評価が向上した児童数が増加した。これらの結果から、既習の疑問文を使って、継続的にその活用を促す指導を行うことによって、児童が疑問文の使い方を理解し、話題や相手の発話に応じてやり取りができるようになると言える。

（イ）既習表現の意味や語順、活用方法について指導をすることの有効性について

本研究の継続的な活動（帯活動）では、既習疑問文の音声面の練習だけでなく、第二言語習得において重要だと考えられている「言語機能」「意味内容」「言語形式」の指導をバランス良く行うことを念頭に置き、単語の意味や文の語順、疑問文の活用方法についても指導を行った。児童の振り返りシートの内容から、こうした指導は、（ア）で示したようなやり取りの質の向上だけでなく、児童が、既習疑問文の明確な意味を知って初めてその活用方法について考えたり、またその汎用性の高さに気づいたりするなど、やり取りの内容に着目するために必要な英語の知識・技能を補う上で効果的であったと言える。

小学校外国語科においては、学習指導要領のウ 話すこと[やり取り]の（ウ）において、話すこと[やり取り]は、「自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動」と述べられている。そのため、外国語活動で行う指導をそのまま継続するだけでは、児童が思考・判断を働かせるようなやり取りを行わせることは難しい。そこで、本研究において行ったように、既習の言語材料を様々な目的や場面、状況において活用できるように、帯活動で繰り返し学習させることが大切である。つまり、言語材料を闇雲に暗唱させるのではなく、言語として形式や意味内容においても児童の理解を促し、自分の言葉で相手の発話に応じてやり取りできるように指導することが求められている。そのためには、指導者が小学校外国語科においても、言語学習で

重要な「言語機能」「意味内容」「言語形式」の三要素を意識しながら、バランス良く指導する必要があると考える(図 49)。

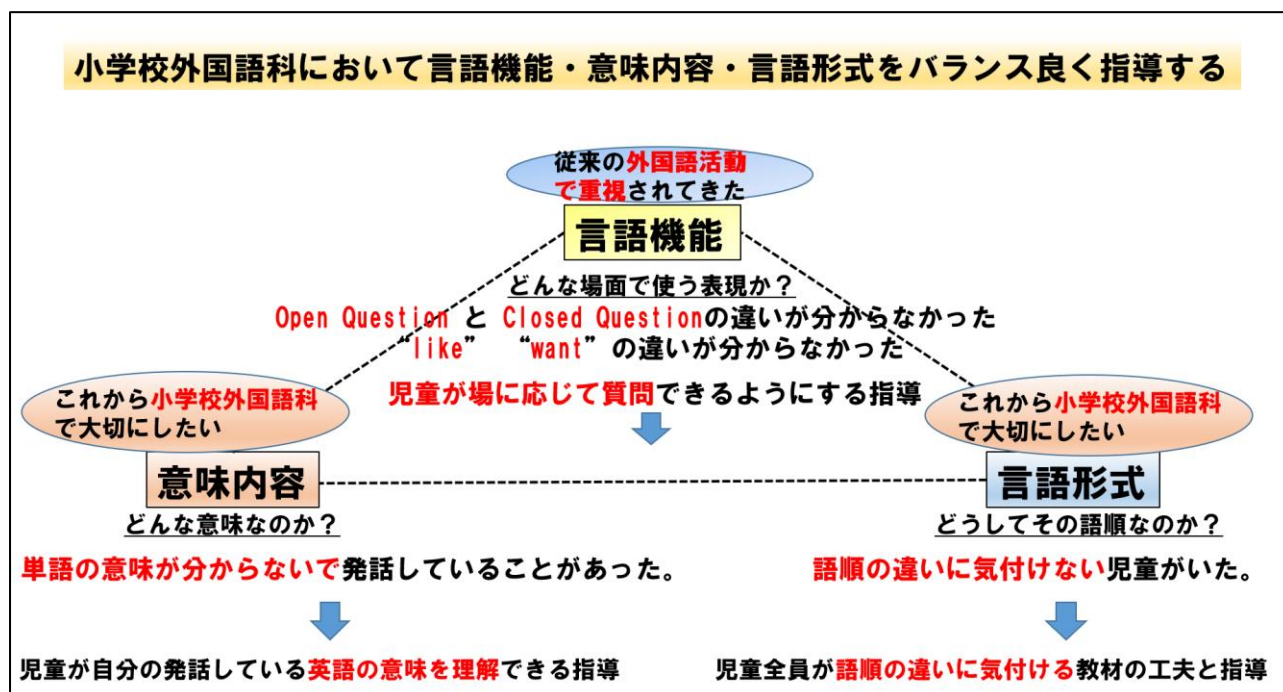


図 49 本研究のまとめ

2 研究の課題

(1) 児童のやり取りに対する意欲の変容を検証するための意識調査アンケートについて

本研究では、やり取りに対する意識調査を7月と11月に実施して、継続的な活動(帯活動)を通じてどのように変容するかを検証を試みた。その際に、児童のやり取りに対する意欲を測ることを目的として「英語でやり取りをすることは好きですか」また「その理由は何ですか」という2つの質問を用いた。しかし、この質問では、児童が英語のやり取りが好きかどうかということしか分からず、この質問の回答をもって英語のやり取りに対して意欲があると判断するには、不十分であった。

英語のやり取りに対する児童の意欲の高まりを効果的に検証するには、より精緻な質問項目を考える必要があった。具体的には、やり取りで困った際に、どうやってやり取りを継続させようとするかや、やり取りがうまくいかなかった時に、次にどのように取り組めばよいかなどを具体的に児童に尋ねるような質問を設定すべきであった。それと合わせて、やり取りを録画した動画や振り返りシートの記述を分析し、実際のパフォーマンスの中で、児童のやり取りに対する粘り強さや自己調整の姿勢が見られるかどうかを丁寧に検証する必要があった。

(2) やり取りの評価と指導の在り方について

本研究では、やり取りの質の高まりを「“Why?” 以外の疑問文の活用数」と「話題や相手の発話に応じた質問になっているか」という2つの観点から評価を行った。このように評価した理由は、7月の事前実態調査の際に、児童が“Why?” をあまりにも多用しており、それ以外の既習疑問文の使用が少な

かったという実態や、児童が話題や相手の発話に応じて “Why?” を使用しているのかが判断できなかったためである。つまり、このやり取りの質の高まりを評価する観点は、研究協力校における児童の実態を基に設定したものであり、児童の実態が異なる他の学校においては、評価の観点としては適さない可能性が高い。そのため、当然のことではあるが、やり取りの評価基準については、各学校の児童の実態に合わせて、その学校の指導教員が適切に作成することが重要となる。

また、やり取りの質を高めるための指導という点では、本研究で扱ったやり方以外にも、様々な方法が考えられる。例えば、検証授業の中で、ある児童が “Do you like popcorn?” と尋ねた。それに対して、別の児童が “Yes, I do. ” と答えるだけでなく、 “Yes, I do. I like caramel popcorn.” と自分の情報を付加して答える様子が見られた。このように、どのような質問をするかだけではなく、質問にどう答えるかということも、やり取りの中では大切な要素であり、その点を重点的に指導することでやり取りの質を高めることも考えられる。本研究では、疑問文の活用に焦点を当てたが、疑問文の活用以外の視点でやり取りの質を高める方策について研究することも可能であろう。

一年間を通じて、話すこと[やり取り]の質を高める指導と評価について研究を行ってきたが、私自身、小学校外国語科においては、児童が使える語彙や表現において制約が非常に大きく、やり取りの質を高める指導を行うことは至難の業であることは重々承知しているつもりである。しかし、小学校において英語が教科化された以上、様々な困難を乗り越え、どのような指導や評価の仕方が児童の資質・能力を育成していけるのかを考えることは、全ての小学校教員に課せられた責務であると考えている。私自身、これからも継続して英語教育に関する研鑽を積み、より良い指導の在り方を模索していきたいと思う。

最後に、本研究に関わり熱心に指導してくださった指導主事の先生方、お忙しい中、快く協力してくださった研究協力員の先生方、研究協力校、並びに研究の場を与えてくださった全ての皆様に感謝し、本研究のまとめとする。

あとがき

今年度、期間採用期間も含めると、教職についてから13年が経った。大学卒業後、初めて期間採用教員として赴任した小学校では、現在の小学校英語教育の前身である英語ノートの活用の研究指定校になっており、初めて小学校の英語教育というものに触れた。私自身、英語が好きで、大学でも英語の授業を選択していたこともあり、赴任した学校の先輩方の授業実践を拝見させていただき、非常に刺激を受けた。それ以来、正採用後、3年目の初任校において、文部科学省の「英語教育強化地域拠点事業」に指定を受けたこともあり、英語専科教員を3年間勤め、毎年公開授業も行った。正直なところ、私は英語専科教員を勤める前には、ALTに授業の内容の全てを任せて、ただ教室の後ろで見ていたり、通訳したりといった感じであった。しかし、英語専科教員となり、その経験を通して、自分自身で英語授業を作るということになり、その楽しさや難しさを実感することができた。その後、赴任した現所属校である加納岩小学校でも、縁があり「全国小学校英語教育研究会」の全国公開授業者の一人として、多くの先生方に助言をいただきながら授業実践を行った。こうした授業実践の中で、私は「自分の授業実践には英語教育に対して “思い” はあるが、“理論” がない」と感じるようになった。今年度、総合教育センターにおいて、一般留学生として研修・研究をさせていただくことになり、“思い” だけでなく、そこに “理論” を加えてこれからの授業実践につなげていく機会をいただき、とても感謝している。

私が今年度総合教育センターでの研修・研究の中で学んだ第二言語習得理論の中で、一番心に残ったのが、英語を「言語形式」「言語機能」「意味内容」に分けて、それらをバランス良く指導していくという方法である。これまで、外国語活動の指導をしている時には、とにかく「楽しく」「英語嫌いを作らない」という事が自分の授業実践の “思い” であった。しかし、今年度の自身の研究を通して、英語を教科として指導する際には、その “思い” だけでは不十分であり、この第二言語習得理論に基づく指導方法を無視することはできないと強く感じた。なぜならば、小学校において「外国語活動」から「外国語科」に変わるという事は、児童に対する英語教育が楽しいの「楽」だけでなく、学びの「学」の要素も少しずつ加えながら、変えていくという視点が重要になると考えたからだ。もちろん、「英語を楽しく学ぶこと」や「英語嫌いを作らない」という視点は大切ではあるが、英語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためには、小学校段階であっても「言語形式」や「意味内容」について学ぶことは避けられないと考える。

教員が「学」としての英語学習を児童に求めることになると、これまでよりも児童一人ひとりの英語に対する得意や苦手が、さらに表出してくると予想される。その際に、児童一人ひとりがどこにつまずいているのか考えて指導方法を工夫していくことが一層重要となる。このことは、算数や国語など、他の教科においてと同様、小学校外国語科においても重要である。「楽」としての英語学習では、主に協働学習（やり取り）を通して、英語を学んできたが、「学」としての英語学習を行う際には、協働学習の観点だけでなく、令和の日本型学校教育における「個別最適な学び」の観点も重要となる。この「個別最適な学び」の具体としては、英語学習と親和性の高いICT活用が考えられる。特に一人一台端末の活用や、動画教材などを用いて発音や会話の練習を個の学習時間や家庭学習で行う事は、より個の苦手なことに即した学習ができ、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するために有用であると考えられる。来年度以降、学校現場において、さらに実践を重ねて、児童が楽しくも「学」としての英語学習ができるように努力していきたい。

【引用・参考文献】

- ・白井恭弘（2012）．「英語教師のための第二言語習得論入門」 大修館書店
- ・和泉伸一（2016）．「フォーカスオンフォームと CLIL の英語授業－生徒の主体性を伸ばす授業の提案－」 アルク
- ・ゾルダン・ドルニェイ（2005）．「動機づけを高める英語指導ストラテジー25」 大修館書店
- ・廣森友人（2015）．英語学習のメカニズム－第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法－ 大修館書店
- ・バドラー後藤裕子（2005）「日本の小学校英語を考えるアジアの視点からの検証と提言」三省堂
- ・柏木賀津子・伊藤由紀子（2020）「小・中学校で取り組むはじめての CLIL 授業づくり」大修館書店
- ・斎藤孝（2006）．「質問力 話し上手はここがちがう」 筑摩書房
- ・田地野彰（2021）．「明日の授業に活かす「意味順」英語指導」 ひつじ書房
- ・田中茂範&cocone(2011).「英語の発想と基本語力をイメージで身につける本」 コスモピア株式会社
- ・内山寿彦・染谷藤重（2019）．「小学校外国語における児童の動機付けを高める授業実践」 鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要
- ・伊東治己（2010）．フィンランドにおける小学校英語教育－その多様性と一貫性に焦点を当てて－ 鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要
- ・簗田由己子（2020）．「スモールトークでいきいき楽しいスピーキング活動を！」Fun with English 2020 春号 啓林館
- ・畑江美佳・米田奈未（2018）．「小学校高学年における初期文法指導－「語順の違い」に気づかせるための指導法の検討－」 四国英語教育学会紀要第38号
- ・矢嶋隆之（2017）．「語順の違いなど文構造への気付きを促す補助教材（Hi、friends! Plus）をしようした授業の効果 一次期学習指導要領における教科化を見据えて－」教育実践研究第27集

- ・文部科学省（2017）．「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」
- ・文部科学省（2017）．「小学校学習指導要領（平成29年告示）」
- ・文部科学省（2017）．「小学校学習指導要領解説（平成29年告示） 外国語活動・外国語編」
- ・西岡加名恵・石井英真・田中耕治（2015）．「新しい教育評価入門－人を育てる評価のために－」有斐閣
- ・織田祐輔・徳富智香子・田端浩多・陀安龍也・赤坂公恵・真田史雄・石井麻里・村上賢一・西川幸佑・野村篤司・長尾征俊・岩田幸久・山本剛・小崎誠二 「プロジェクト研究Ⅱ「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業づくり」

【研究協力校】

山梨市立加納岩小学校 校長 中村 雅彦

【研究協力員】

饗場 千夏	甲府市立国母小学校
河西 利樹	中央市立三村小学校
小池 美樹	山梨市立加納岩小学校
三枝 英太郎	甲州市立塩山北小学校
原藤 さつき	北杜市立長坂小学校

【研究指導者】

角田 恵一	調査研究課 副主幹・指導主事 (留学生担当・主担当指導主事・英語)
興水 美香	調査研究課 副主幹・指導主事 (主担当指導主事・国語)
西谷地 力也	調査研究課 副主査・指導主事 (世話人)
三枝 敦子	研修指導課 副主幹・指導主事
三枝 朋佳	研修指導課 副主査・指導主事
中村 忠廣	情報教育部 副主幹・指導主事

令和4年度 山梨県総合教育センター
一般留学生研究報告書
執筆者 一般留学生 金子 裕亮

補助資料

小学校外国語科における児童の話すこと[やり取り]の質を高める

授業実践

—疑問文を活用する力を伸ばす継続的な活動（帯活動）を通して—

山梨県総合教育センター

令和4年度 一般留学生 金子裕亮



目次

1. 事前意識調査
2. 事後意識調査
3. 継続的な活動（帯活動）ワークシート
4. 検証授業ワークシート
5. 動画教材 QR コード
6. やり取りの話題に関する事前調べワークシート
7. 検証授業で児童が実際に作成したマッピング（一部）
8. 児童の検証授業のやり取りに対する感想
9. 授業で活用した単語の意味を伝えるイメージ

1. 事前意識調査

外国語科に関するアンケート

このアンケートは、あなたの普段の外国語科の授業についてたずねるものです。成績をつけるものでは決してありません。自分が思った通りに答えてください。

質問1 英語でやりとりをすることは好きですか？

- ☐ 好き
- ☐ どちらかと言えば好き
- ☐ どちらかと言えば嫌い
- ☐ 嫌い

質問1の理由を教えてください。

回答を入力

授業中に英語でやりとりをする活動がどれくらい行われていますか？

- ☐ よく行われている
- ☐ 行われている
- ☐ あまり行われていない
- ☐ 行われていない

質問2 英語でやりとりをする時にこれまで授業で習ってきた表現を使おうとしていますか？

- ☐ よく使おうとしている
- ☐ 使おうとしている
- ☐ あまり使おうとしていない
- ☐ 使おうとしていない

質問3 英語でやりとりをする時にどんなことに気を付けていますか？当てはまるもの全てに☑をしてください。いくつでも選んでかまいません。その他の場合は、具体的に書いてください。

- ☐ 声の大きさ
- ☐ アイコンタクト（相手と目を合わせて話す）
- ☐ 表情・ジェスチャー（身振り手振り）
- ☐ リアクション表現（I see. Me too.などの主に相づちのような表現）
- ☐ 質問の内容（どんな質問をするか）
- ☐ 会話を続けること
- ☒ その他: _____

質問4 英語でやりとりをする時にどんなことに困りますか？いくつでも選んでかまいません。その他の場合は、具体的に書いてください。

- ☐ 自分の考えを持つことができない
- ☐ 自分の考えを英語で表現できない
- ☐ 相手の発言が理解できない
- ☐ 会話の続け方が分からない
- ☐ 特になし
- ☐ その他: _____

...

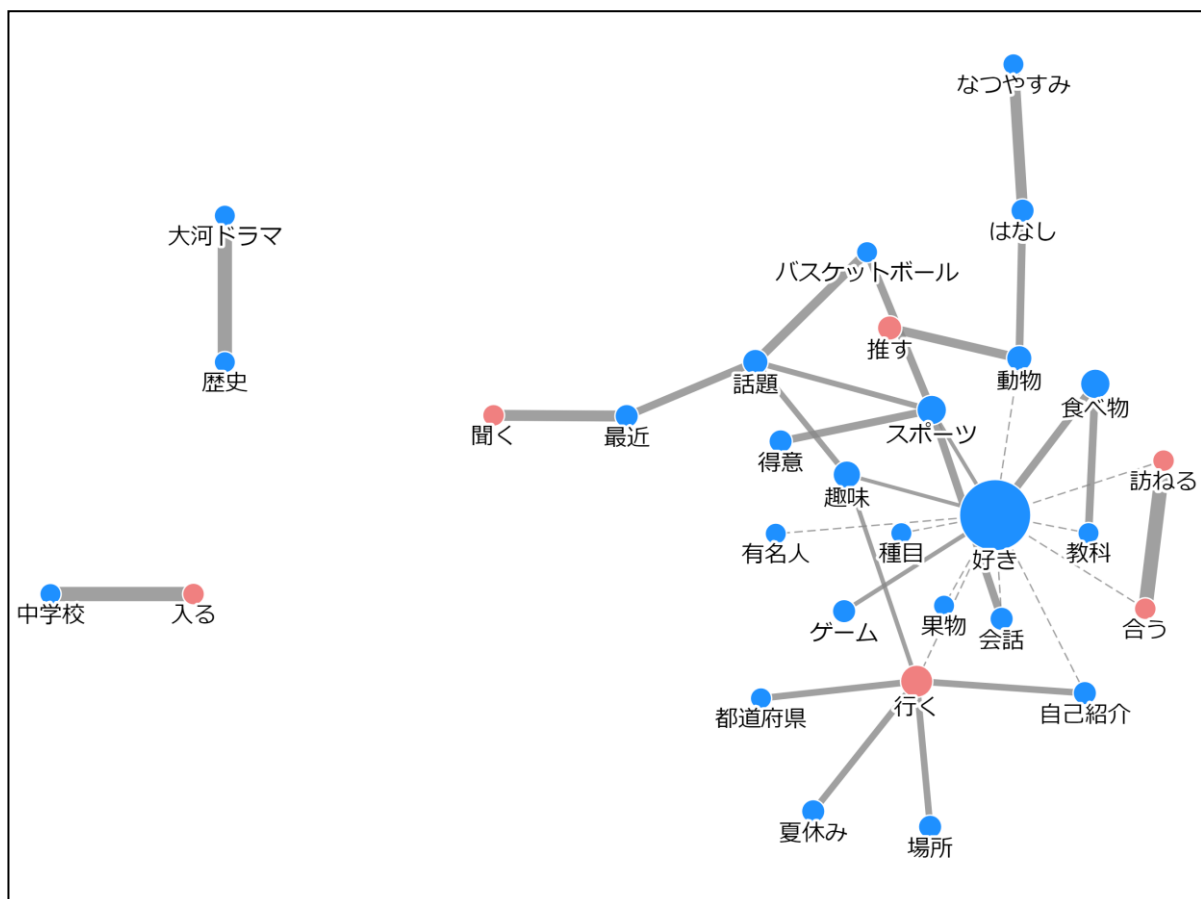
質問5 英語でやりとりをする時にどんなことに困りますか？いくつか選んでもかまいません。その他の場合は、具体的に書いてください。

- ☐ 自分の考えを持つことができない
- ☐ 自分の考えを英語で表現できない
- ☐ 相手の発言が理解できない
- ☐ 会話の続け方が分からない
- ☐ 特になし
- ☐ その他...

質問6 教室でクラスの友達と英語でやりとりをするとしたらどんな話題がいいですか？自由に書いてください。（～の話などでもいいです）

記述式テキスト（短文回答）

児童が友達と英語でやり取りをしたい話題（共起キーワード）



2. 事後意識調査（本章で取り扱わなかったアンケート結果）

外国語科に関するアンケート

このアンケートは、あなたの普段の外国語科の授業についてたずねるものです。成績をつけるものでは決してありません。自分が思った通りに答えてください。

名前を書いてください。

記述式

記述式テキスト（短文回答）

必須

質問1 英語でやりとりをすることは好きですか？

☐ 好き

☐ どちらかと言えば好き

☐ どちらかと言えば嫌い

☐ 嫌い

質問1の理由を教えてください。

記述式テキスト（短文回答）

質問2 英語でやりとりをする時にこれまで授業で習ってきた表現を使おうとしていますか？

☐ よく使おうとしている

☐ 使おうとしている

☐ あまり使おうとしていない

☐ 使おうとしていない

質問3 英語でやりとりをする時にどんなことに気を付けていますか？当てはまるもの全てに☑をしてください。いくつでも選んでかまいません。その他の場合は、具体的に書いてください。

- ☐ 声の大きさ
- ☐ アイコンタクト（相手と目を合わせて話す）
- ☐ 表情・ジェスチャー（身振り手振り）
- ☐ リアクション表現（I see. Me too.などの主に相づちのような表現）
- ☐ 質問の内容（どんな質問をするか）
- ☐ 会話を続けること
- ☐ その他...

質問4 英語でやりとりをする時にどんなことに困りますか？いくつでも選んでかまいません。その他の場合は、具体的に書いてください。

- ☐ 自分の考えを持つことができない
- ☐ 自分の考えを英語で表現できない
- ☐ 相手の発言が理解できない
- ☐ 会話の続け方が分からない
- ☐ 特になし
- ☐ その他...

質問5 前回の英語でのやりとり（夏休みに行きたい都道府県）と比べて、会話を深めることができましたか？

- ☐ そう思う
- ☐ どちらかと言えばそう思う。
- ☐ どちらかと言えばそう思わない
- ☐ 思わない

質問6 朝学習で行った活動の中で楽しかったものを教えてください。楽しかったもの全てに☑をいれてください。

- ☐ トラベルゲーム
- ☐ ヒドゥンピクチャーゲーム
- ☐ 一枚の写真から
- ☐ 動画
- ☐ スモールトーク

質問7 みなさんに見てもらった動画の種類の中で見やすかった、または聞きやすかったのはどちらか教えてください。

- ☐ イラストとAI音声によるやりとり解説（動画①～⑧）
- ☐ イラストと先生の声による解説（Unit6解説）

質問8 家で英語を学習する動画を宿題や自主学習として見ることにどう思いましたか？思ったことを書いてください。動画についての感想も書ける人は書いてください。

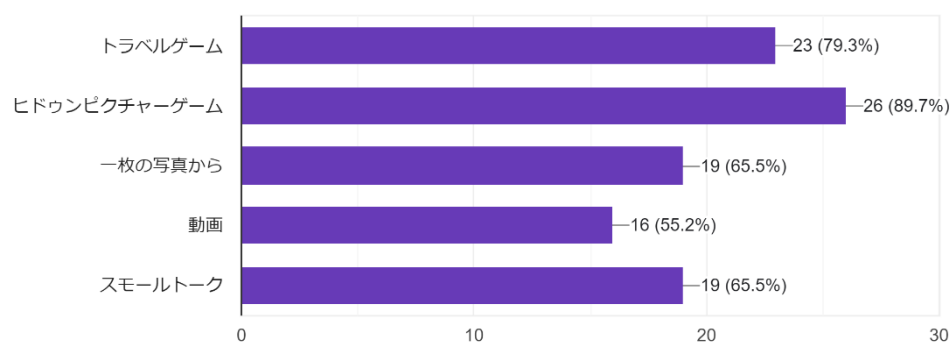
記述式テキスト（短文回答）

質問9 朝学習全体を通しての感想を教えてください。（分かったことや印象に残ったことなどでもいいです。）

記述式テキスト（長文回答）

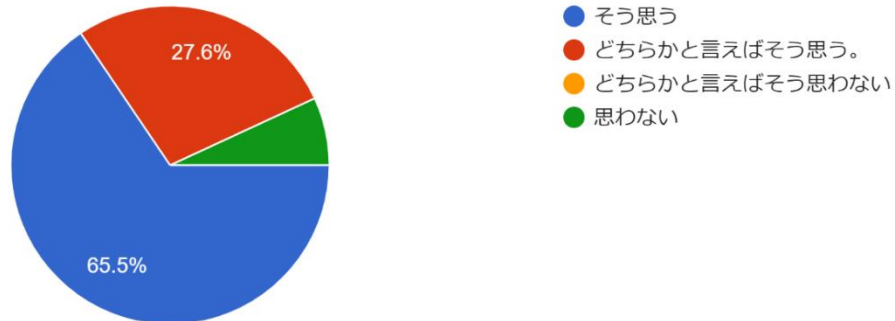
継続的な活動（帯活動）で楽しかったもの

質問6 朝学習で行った活動の中で楽しかったもの...い。楽しかったもの全てに☑をいれてください。
29 件の回答



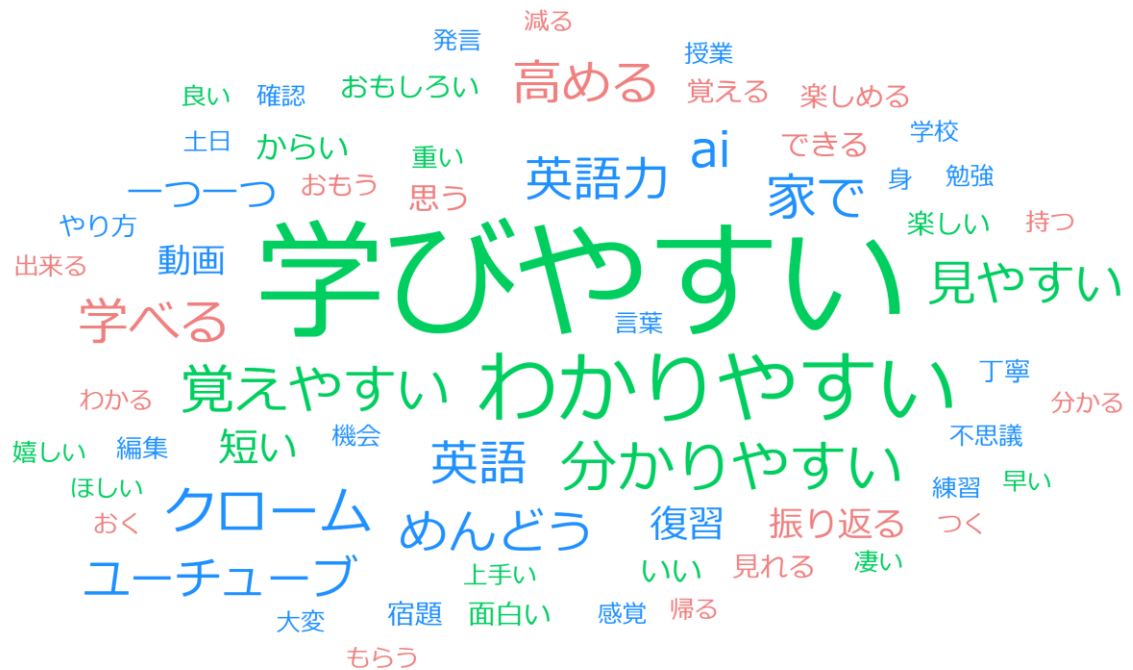
児童のやり取りの深まりに関する自己評価

質問 5 前回の英語でのやりとり（夏休みに行き...）と比べて、会話を深めることができましたか？
29 件の回答



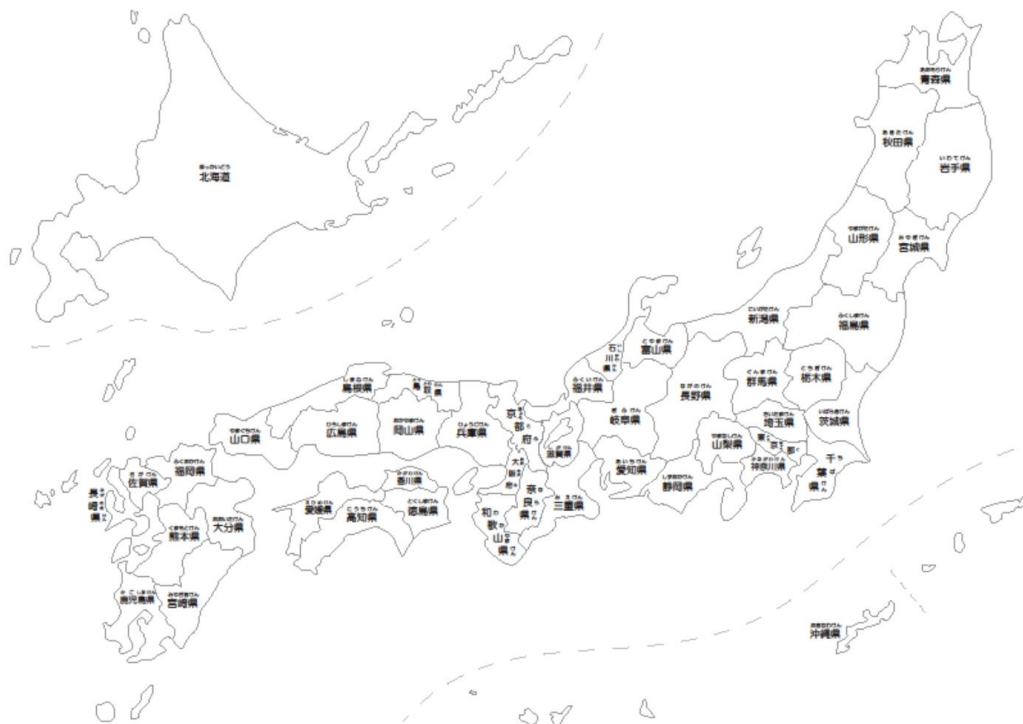
英語の動画教材に関する児童の感想（テキストマイニング）

※家庭における自主勉強で行っていたので全員が視聴していない。



3 継続的な活動（帯活動）のワークシート例

Travel Game



(C) 小学生の学習教材「知れやすドリル」 <http://kotoba-illustrator.jp/kyogaku.html>

⑦ / _____

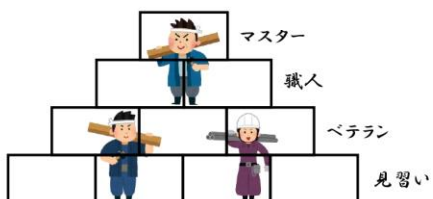
⑧ / _____

⑨ / _____

⑩ / _____

やりとりマスターへの道

質問する道具が増えた時にシールを貼っていこう。



朝学習



外国語科振り返りシート

活動のめあて

Name 【 _____ 】

質問する道具



使えるようになったら「英語で質問してみよう」から書き写そう!!

① / _____

② / _____

③ / _____

④ / _____

⑤ / _____

⑥ / _____

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
／	

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
／	

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
／	

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
／	

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
／	

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
／	

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
／	

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
／	

『質問』チェックシート①

□問/8問

Name 【 】

これまで、朝学習で練習してきた「質問する」英語がどれくらい身についているかチェックします。このチェックは、主に「ルーレットゲーム」で使ってきた英語です。右側の答えの部分は、2回発音しますので、メモをとってもかまいません。

※ヒント集「ルーレットゲームの羅」は、見ないでやってみましょう！

□「何の○が好きですか？」と質問する時には、何と言いますか？ ●

● What do you want to ○?

□「何が欲しいですか？」と質問する時には、何と言いますか？ ●

● What ○ do you like?

□「お気に入りの○は何ですか？」と質問する時には、何と言いますか？ ●

● What do you want?

□「どこに行きたいですか？」と質問する時には、何と言いますか？ ●

● Do you like ○?

□「何を○（し）たいですか？」と質問する時には、何と言いますか？ ●

● Do you want ○?

□「○が好きですか？」と確認したい時には、何と言いますか？ ●

● Where do you want to go?

□「○が欲しいですか？」と確認したい時には、何と言いますか？ ●

● What's your favorite ○?

□「○できますか？」と確認したい時には、何と言いますか？ ●

● Can you ○ ○?

□「好きな野菜は何ですか？」と質問する時、下の英語のどこを “vegetable” に変えればよいでしょうか？変える英語（単語）に○をつけましょう。

What animal do you like?

□「野球できますか？」と質問する時に、正しい英語は次の内どれでしょうか？正しい表現に○をつけましょう。

Can you play baseball?

Can you baseball?

Can you baseball play?

□次の英語の中で、Yes, I do/ No, I don't. で答えられる質問の全てに○をつけましょう。

Do you want a present?

What animal do you like?

What do you want?

Do you like dogs?

What color do you like?

What's your favorite food?

今回のシールゲット数は・・・



枚

4. 検証授業ワークシート



Name

のおススメ『山梨おでかけプラン』

～スティーブ先生！ぜひ！ここに行ってください！～



スティーブ先生の関心事を聞き出す話題

プランを考えるためにその他に質問したいこと

最初の質問

スティーブ先生について分かったこと

スティーブ先生について分かったこと



スピーチの部品

① 山梨には〇〇があります。

In Yamanashi. We have 〇〇.

② それは(美しい/おいしい/カッコいい など) □□です。

It's □□.

③ △△ができます。

We can △△.

④ ぜひ! ◎◎に行ってください!

Please visit ◎◎!

スピーチ原稿



一人で困らないで...

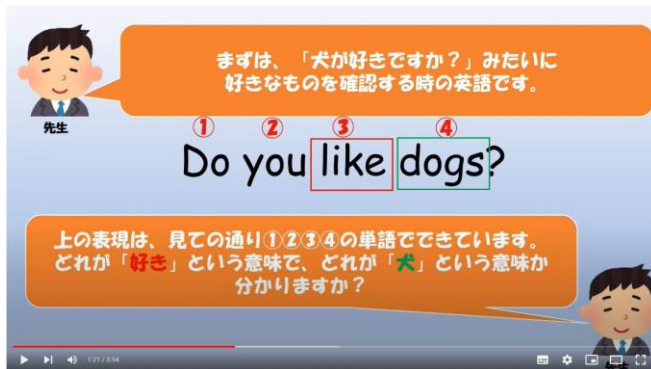
スペルが分からない
英語でなんていうか忘れちゃった
言いたいことがうまく英語にできない

教科書 P118 ~ 「絵辞典」

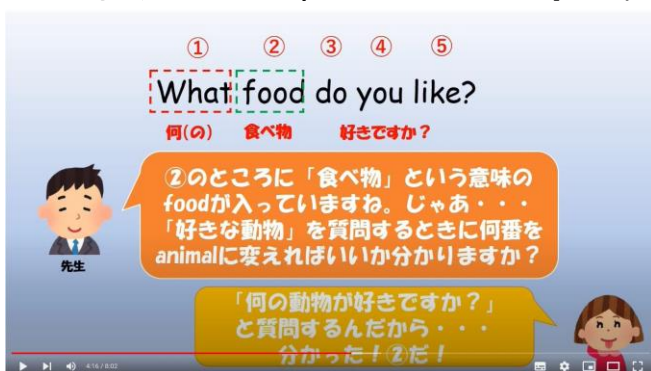
先生に相談

5. 動画教材 QR コード一覧

疑問文① (Do you like~?) <https://youtu.be/QETff1Pa_7Q>



疑問文② (What □ do you like?) <<https://youtu.be/bUmAAJVdnII>>



疑問文③ (Where do you want to go?) <<https://youtu.be/0rrXGtowfW8>>



疑問文④ (What do you want?) <<https://youtu.be/1miHQSyTdYc>>



疑問文⑤ (What do you want to do?) <<https://youtu.be/oR95a7mGdo0>>



疑問文⑥ (What is your favorite □?) <<https://youtu.be/xT-RVmlc0FQ>>



疑問文⑦ (Can you～?) <<https://youtu.be/nHUK-3ZPcHY>>



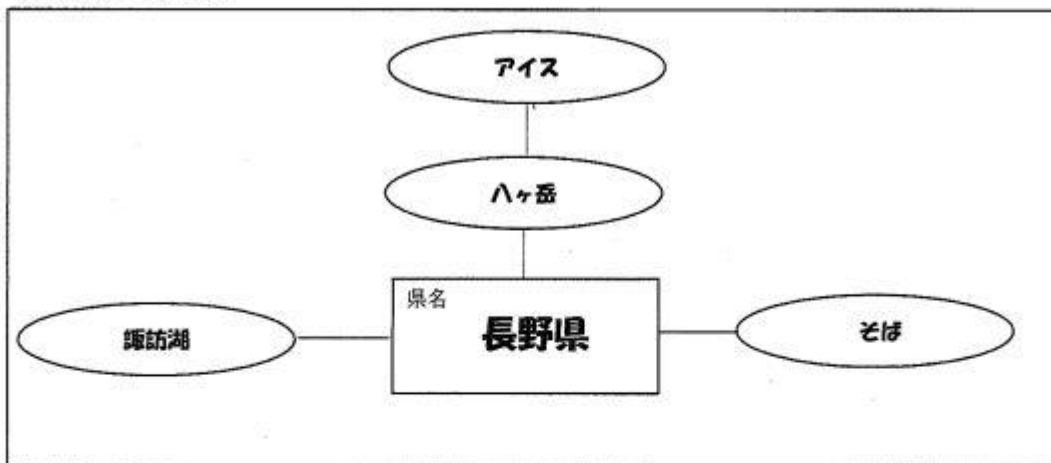
シャドーイング (Unit6) <<https://youtu.be/1ELlXWljdTg>>



6. やり取りの話題に関する事前調べワークシート

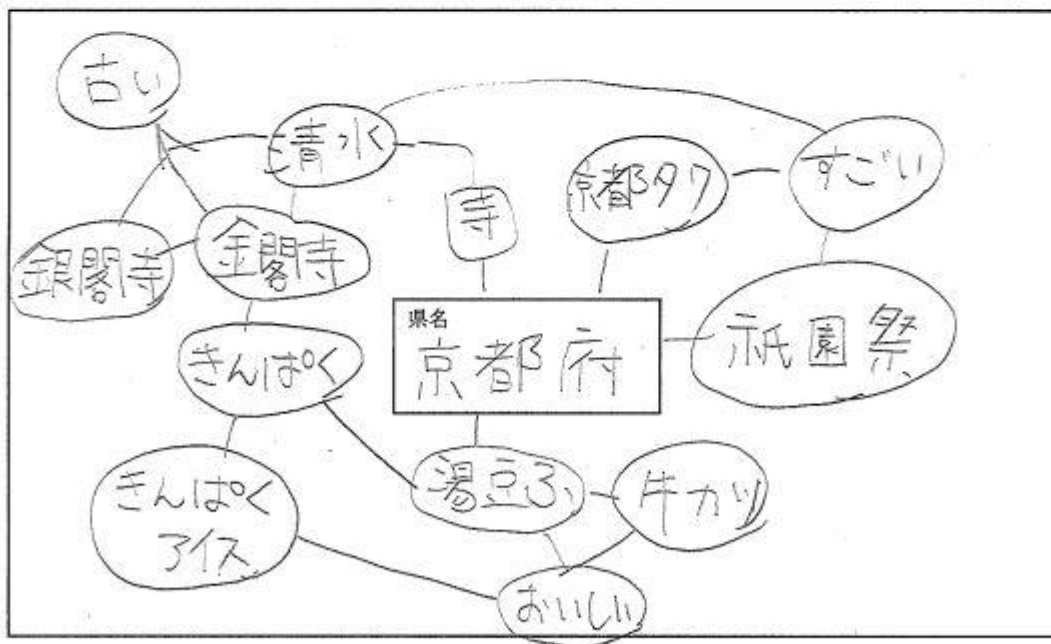
話題「冬休みにどこに行きたいか」

ウェビングマップ例



ウェビングマップを作ってみよう

～どんなことを話したいか準備しておこう～



最初の一言

What prefecture do you like? I like _____.

7. 検証授業で児童が実際に作成したマッピング（一部）

Small Talk お話マップ



Name



今日のトピック「冬休みに行ってみたい都道府県」

最初の質問

What prefecture do you like?

ペアの友達について分かったこと



Small Talk お話マップ



Name

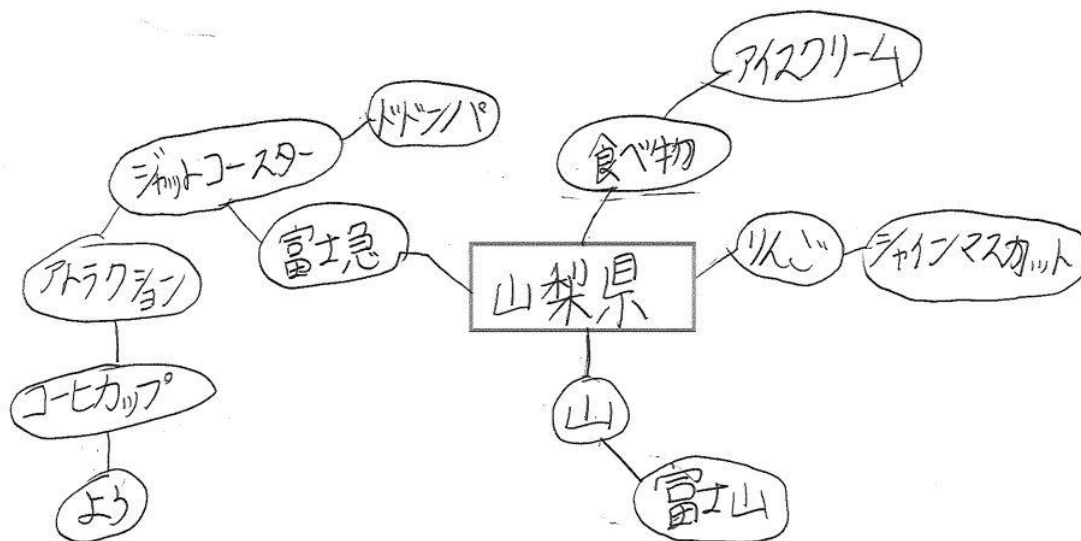


今日のトピック「冬休みに行ってみたい都道府県」

最初の質問

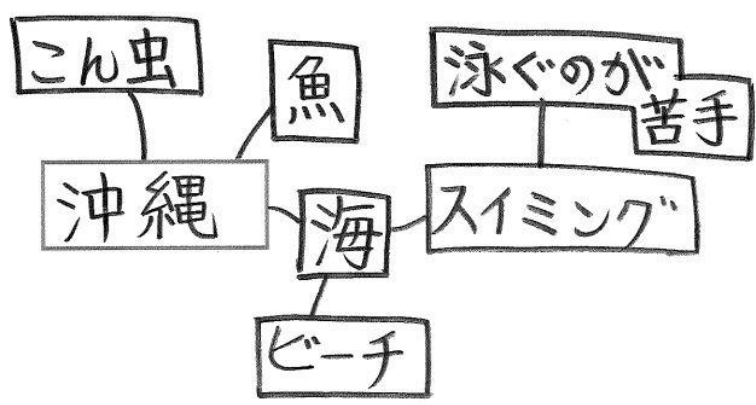
What prefecture do you like?

ペアの友達について分かったこと



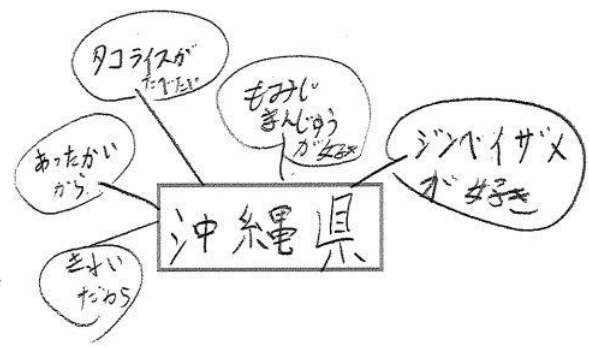
今日のトピック「冬休みに行ってみたい都道府県」 最初の質問 What prefecture do you like?

ペアの友達について分かったこと



今日のトピック「冬休みに行ってみたい都道府県」 最初の質問 What prefecture do you like?

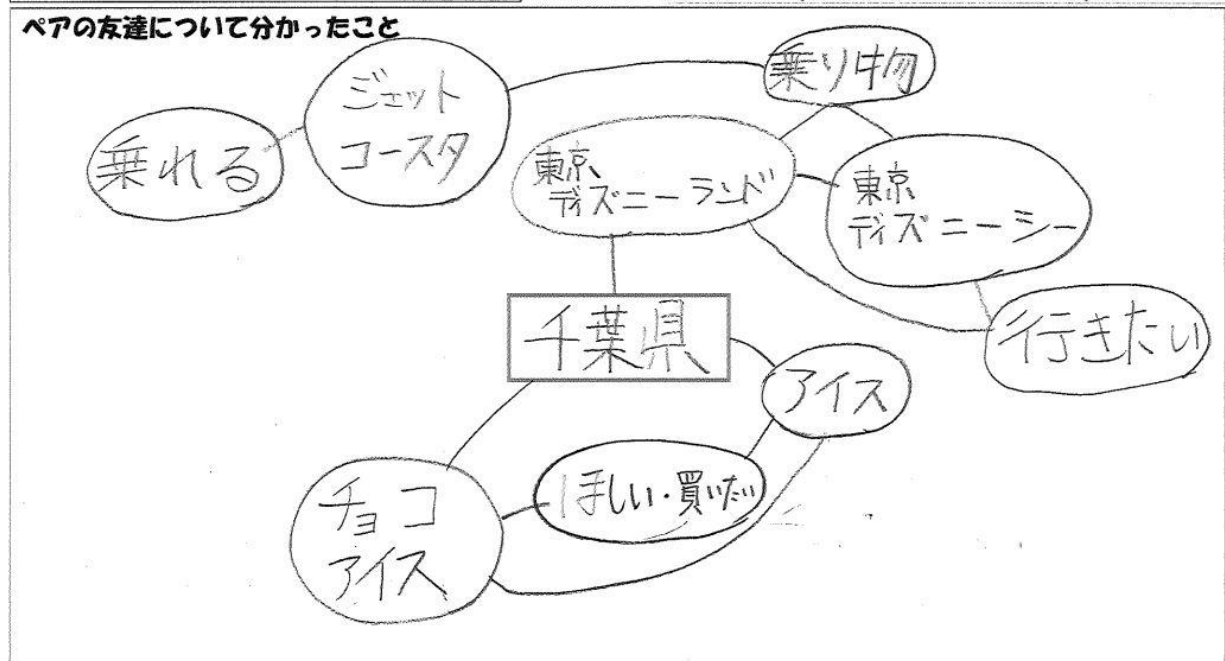
ペアの友達について分かったこと



今日のトピック「冬休みに行ってみたい都道府県」 最初の質問

What prefecture do you like?

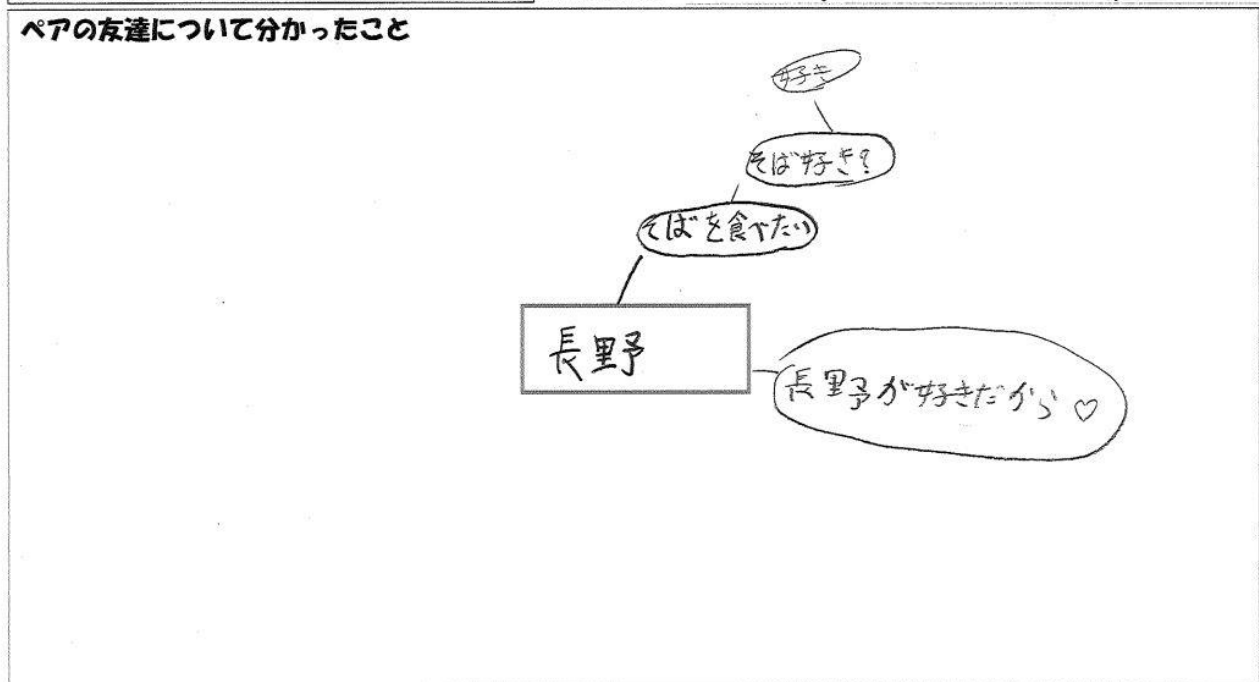
ペアの友達について分かったこと



今日のトピック「冬休みに行ってみたい都道府県」 最初の質問

What prefecture do you like?

ペアの友達について分かったこと



8. 児童の検証授業のやり取りに対する感想（一部）

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
11	前々から「大それた会話を」の時、局のとか、しやが「大それた」もて「な」かたけどち回し、3分1秒以上会話をできて もててもよかたてす
11	

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
11	と話しをして、知らない事 がわかった。ジェットコースターに乗れるこ とをはじめてしまった。もっと、どんな事 ができるか好きな食べ物は何にか ききたいです。

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
11	言語も友達のことにも関心する。質問により大それた
11	
11	ペアの[]は大阪へ行きたいと書いてある。おまかせのたいもの。また、[]が[]と[] など、What do you want to go to? do you like Tokyo?

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
11	友達と話しているとき、たまに行きづまってしまっ て、力不足だと感じたので、次はもっと しっかり言えるようになりたいです。

日	感想 (できるようになったこと/気付いたこと/次に生かせること/できるようになりたいこと)
11月11日	行きたーい都道府県がよくわかったし、その 名所もよくわかった。ラーメンがなるま ういい。 

日	感想 (できるようになったこと/気付いたこと/次に生かせること/できるようになりたいこと)
11月11日	友達がいなくなったときに質問してよかったから、こっちは質問 しやすかった。

日	感想 (できるようになったこと/気付いたこと/次に生かせること/できるようになりたいこと)
11月11日	今日は友達の人と冬休みに行きたい都道府県 の会話としてあまりよくはいえなかったけど少しで も友達のやりたいことや色々なことをきけた。

日	感想 (できるようになったこと/気付いたこと/次に生かせること/できるようになりたいこと)
11月11日 (金)	3分だけの時間であまり質問はできなかったけど以外 とたくさん[redacted]の行きたい所や何が好きか聞 けて知ることができました。今後こういう質問し合う きっかけがほしいです。

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
11 / 11	前よりたくさん会話ができた。 いい質問ができた。楽しかった。

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
11 / 11	冬休みに行きたい都道府県と何をしたいか聞けたけどそのあと話し合いが続き できなかった。

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
11 / 11	紙がなくなると質問があまり出来なかったから紙がなくてもいざばい質問出来るようになりたい [redacted]がフーヒーカップがよいことがわかった

日	感想（できるようになったこと／気付いたこと／次に生かせること／できるようになりたいこと）
11 / 11	友達とやりとりができた。でも質問が覚え えつけなくてなんとか力をあてなんとかし つづきを言いました。よく知りました。

8. 授業で活用した単語の意味を伝えるイメージ (Unit6)



What



We



I



Don't



have



can



want



enjoy



want to



like



Where